

紀北町まちづくりに関するアンケート調査 結果報告書

平成 23 年3月

【目次】

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 報告書の見方	1
II. 調査の結果	3
1. 回答者について	3
2. 紀北町の取り組みの満足度と今後の重要度について	6
3. 紀北町のこれからのまちづくりについて	14
4. 分野別のまちづくりについて	25
5. 住民参加について	41
6. 紀北町の将来像について	47
7. 行政サービスについて	49
III. 結果の考察	50
1. 全体考察	50
2. 年代別傾向の考察	52

1. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、第1次総合計画後期基本計画の策定にあたり、前期計画の評価をするとともに、住民の皆様のご意見を把握し、これからのまちづくりに反映するために実施しました。

2. 調査設計

調査区域 : 紀北町全域

調査対象 : 20歳以上の町民から男女1,000人ずつ、合計2,000人を無作為抽出

調査時期 : 平成23年2月

調査方法 : 郵送配布、郵送回収による郵送調査

配布数 : 2,000票

回収数 : 838票

回収率 : 41.9%

■参考：性別・年代別回収率

		合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
合計	配布数	2,000	169	217	265	310	400	372	267
	回収数	838	49	70	101	125	201	180	90
	回収率	41.9%	29.0%	32.3%	38.1%	40.3%	50.3%	48.4%	33.7%
男性	配布数	1,000	89	122	140	167	199	189	94
	回収数	359	17	25	40	61	92	86	34
	回収率	35.9%	19.1%	20.5%	28.6%	36.5%	46.2%	45.5%	36.2%
女性	配布数	1,000	80	95	125	143	201	183	173
	回収数	466	32	45	61	64	109	93	55
	回収率	46.6%	40.0%	47.4%	48.8%	44.8%	54.2%	50.8%	31.8%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

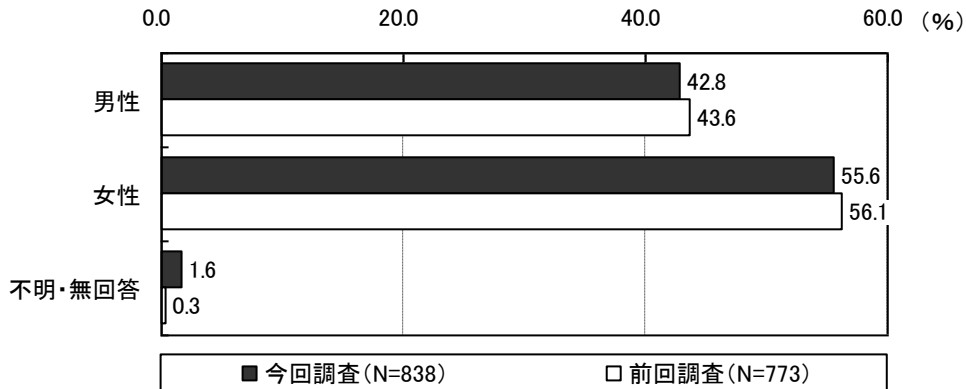
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表の「N数 (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- グラフ・表中の「前回調査」は、平成 18 年度に実施した調査を、「今回調査」は、平成 22 年度に実施した調査の結果を表しています。
- グラフ、表中、文中の選択肢、設問等は今回調査を基本としています。そのため、前回調査とほぼ同意ととれる選択肢について同じものとして扱っています。
また、グラフ・表中の割合について、複数回答の設問については、選択可能件数が異なっているものがあります。

II. 調査の結果

1. 回答者について

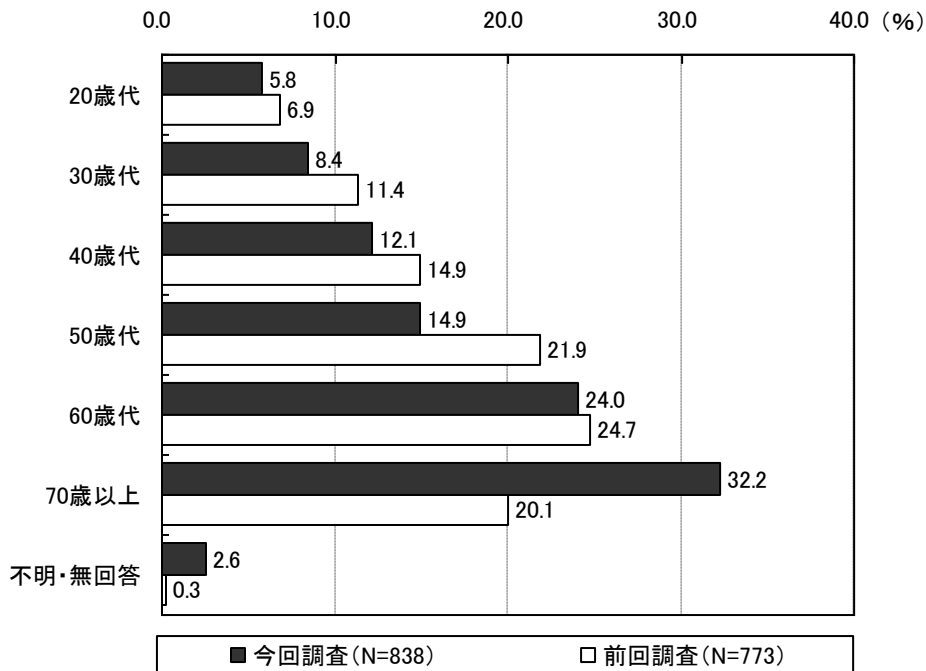
【1】 あなたの性別はどちらですか。

回答者の性別は、「女性」が 55.6%、「男性」が 42.8%と「女性」の方が高い割合となっています。前回調査と比較すると「男性」よりも「女性」の割合が高く、前回調査からの大きな変化は見られませんでした。



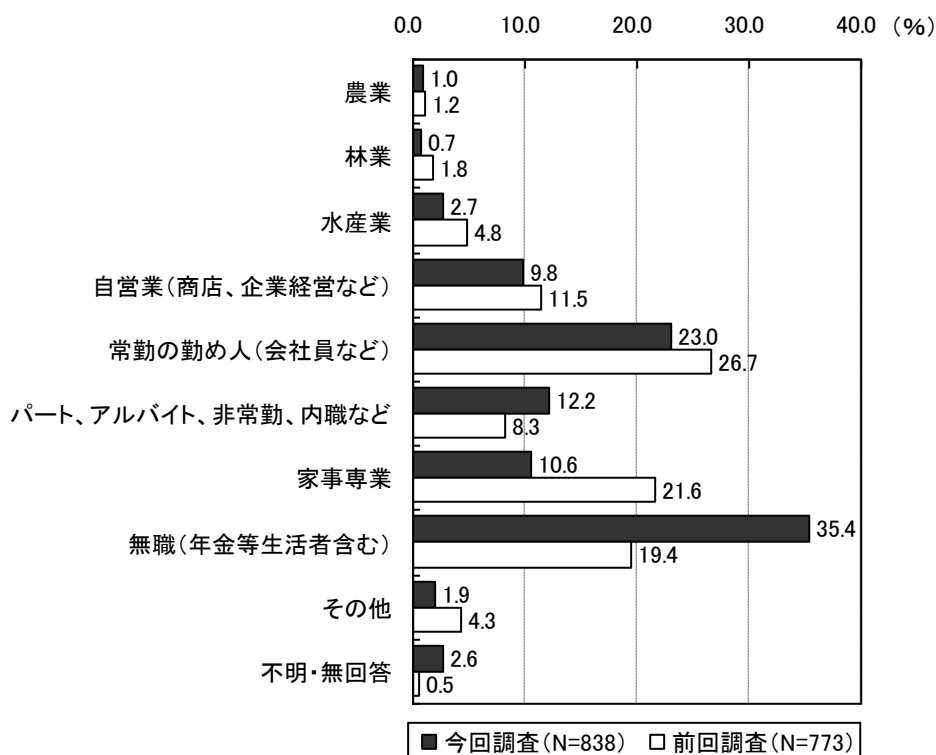
【2】 あなたの年齢はどれにあたりますか。

回答者の年齢は、「60歳代」が最も高く 24.0%、「70歳代」が 21.5%と、『60歳代以上』が 56.2%を占めており、高齢化を反映した結果となっています。前回調査と比較すると、「50歳代」の割合が低くなり、「70歳以上」の割合が高く、高齢化がさらに進行した状況がうかがえます。



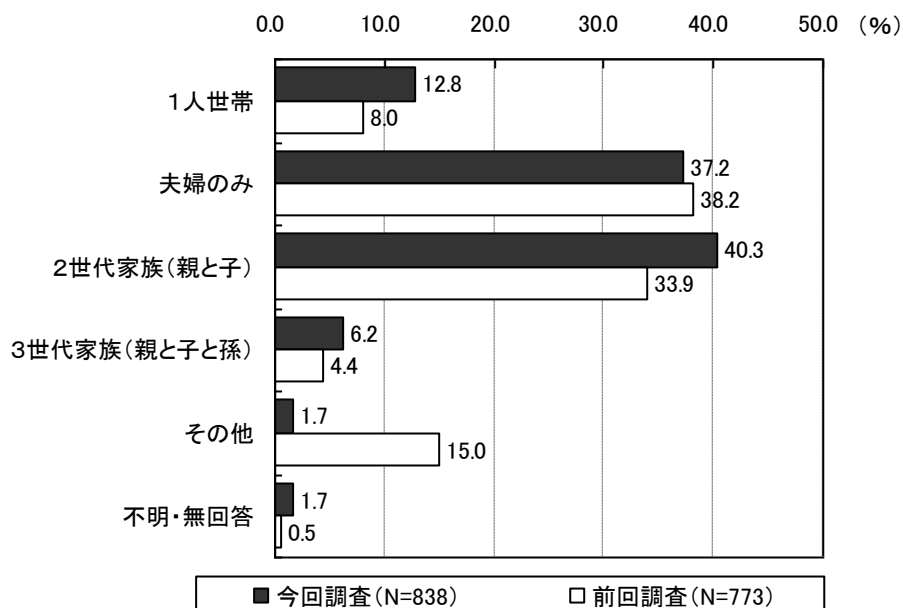
【3】 あなたの職業はどれにあたりますか。

回答者の職業は、「無職（年金等生活者含む）」が最も高く 35.4%、「常勤の勤め人（会社員など）」が 23.0%、「パート、アルバイト、非常勤、内職など」が 12.2%となっており、農林水産業や自営業を含めると、なんらかの仕事をしている人は半数程度となっています。前回調査と比較すると、「家事専業」の割合が低くなり、「無職（年金等生活者含む）」の割合が高くなっています。また、「常勤の勤め人（会社員など）」の割合が低くなり、「パート、アルバイト、非常勤、内職など」の割合が高くなっており、高齢化や経済状況等を反映した結果となっています。



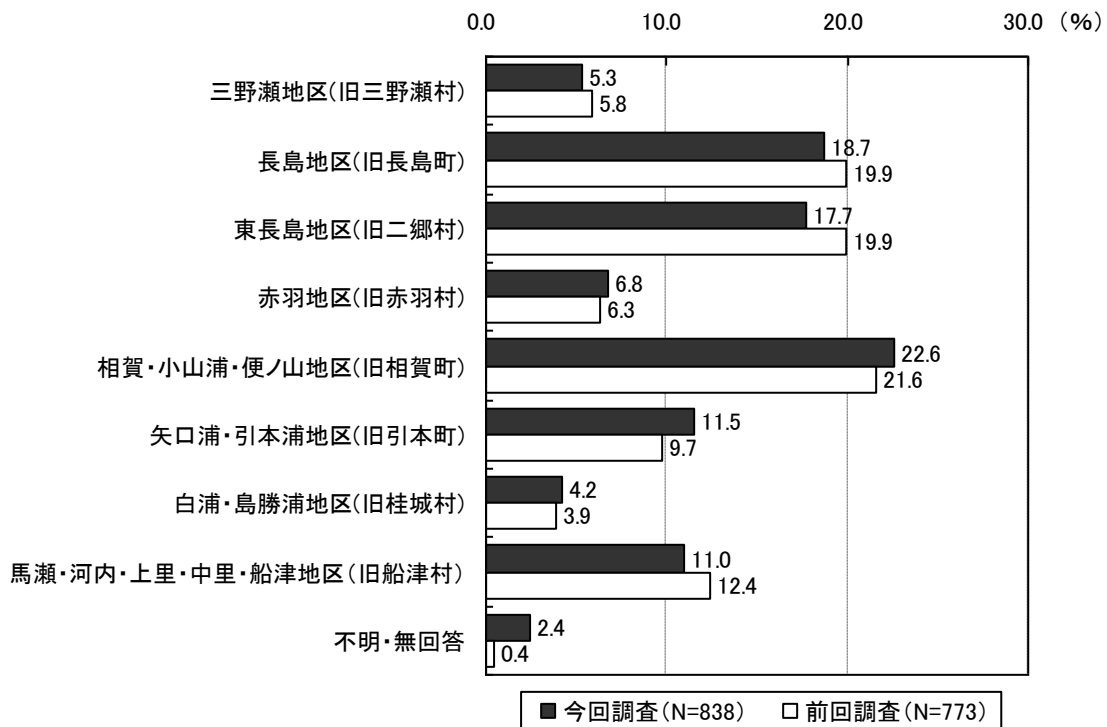
【4】 あなたの家の家族構成はどれにあたりますか。

回答者の家族構成は、「2世代家族（親と子）」が最も高く 40.3%、次いで「夫婦のみ」が 37.2%と、これらの分類が大半を占めており、核家族化の進行がうかがえます。前回調査と比較すると、「1人世帯」「2世代家族（親と子）」などの割合が高くなっています。



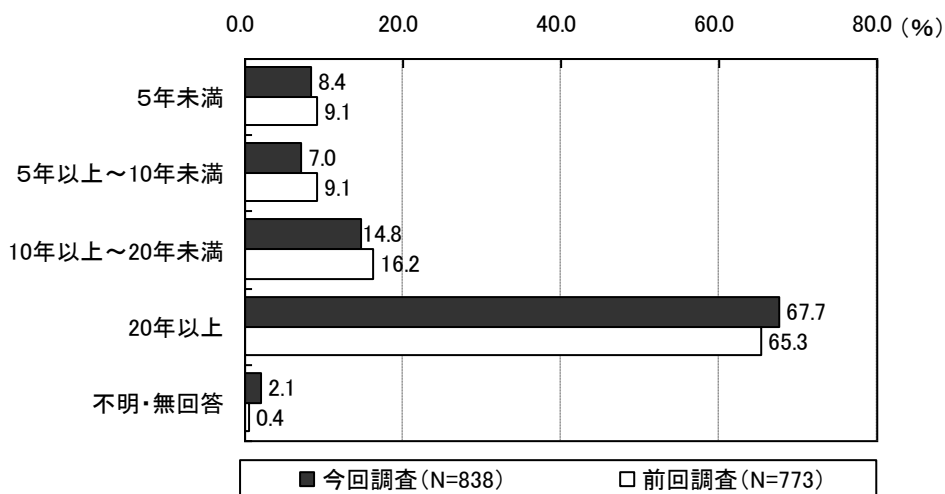
【5】 あなたがお住まいの地区はどこにあたりますか。

回答者の居住地区は、「相賀・小山浦・便ノ山地区（旧相賀町）」が22.6%、次いで「長島地区（旧長島町）」が18.7%、「東長島地区（旧二郷村）」が17.7%となっています。前回調査と比較すると、「相賀・小山浦・便ノ山地区（旧相賀町）」や「矢口浦・引本浦地区」などでは高く、「長島地区」「東長島地区」などでは低くなっています。



【6】 あなたは、現在の場所にお住まいになって何年になりますか。

回答者の居住年数は、「20年以上」が群を抜いて高く67.7%、次いで「10年以上～20年未満」が14.8%と、『10年以上』居住している人が82.5%であるのに対し、『10年未満』の人は15.4%にとどまっています。前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっていますが、「20年以上」がさらに高い割合となり、「5年未満」「5年以上～10年未満」の割合が低くなっているため、人口の移動が少なかったことがうかがえます。



2. 紀北町の取り組みの満足度と今後の重要度について

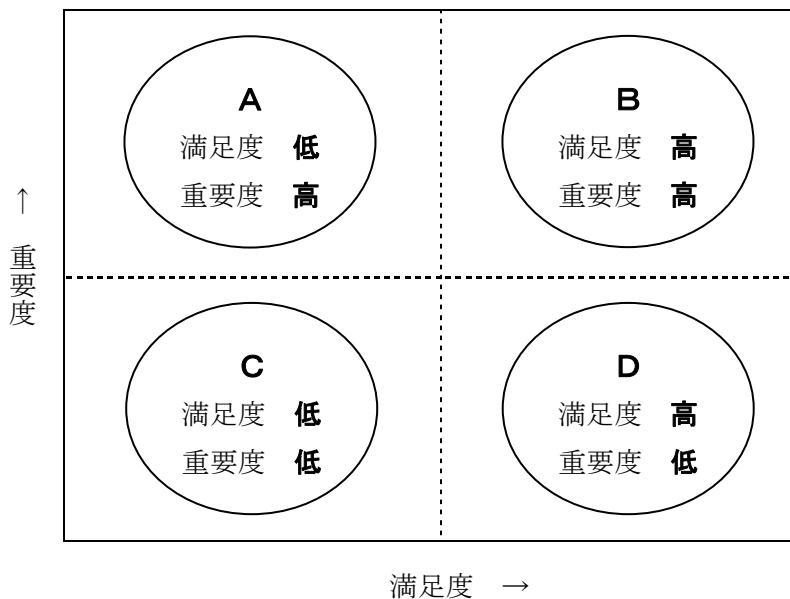
【1】分析方法

満足度の点数化については、「満足している」＝5点、「やや満足している」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満である」＝1点として「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

重要度の点数化については、「重視している」＝5点、「やや重視している」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「あまり重視していない」＝2点、「重視していない」＝1点として、「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

町の取り組みやサービスの分野 25 項目について、上記の基準で点数化し、散布図に落とし込みました。

■結果の分類



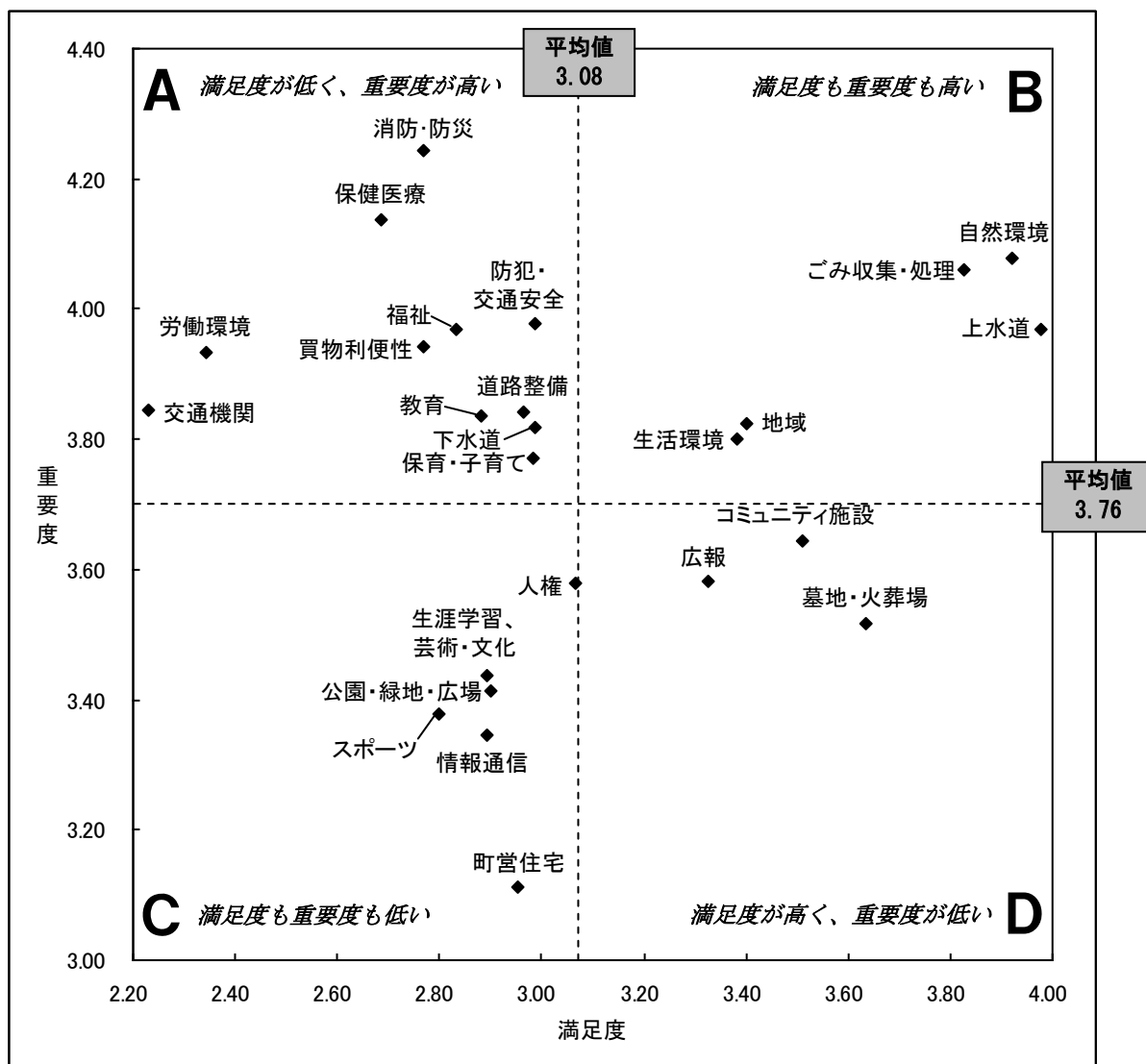
領域	説明
A	重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度は高く、重要度が低いため、今後場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで 25 項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

【2】満足度・重要度の散布図

満足度と重要度の散布図について、「消防・防災」「保健医療」「労働環境」「福祉」などが、満足度が低く、重要度が高いAの領域に分類され、主に生活の安全・安心を確保するための項目が今後優先して充実することが求められています。

一方で、「墓地・火葬場」「広報」「コミュニティ施設」が、満足度が高く、重要度が低いDの領域に分類され、住民視点で捉えたときに現時点での優先度は低い項目となっています。



領域	項目
A	消防・防災、保健医療、労働環境、福祉、交通機関、買物利便性、防犯・交通安全、教育、道路整備、下水道、保育・子育て
B	自然環境、ごみ収集・処理、上水道、地域、生活環境
C	町営住宅、情報通信、スポーツ、公園・緑地・広場、生涯学習、芸術・文化、人権
D	墓地・火葬場、コミュニティ施設、広報

【3】満足度・重要度一覧

満足度の上位3件は、「上水道」「自然環境」「ごみ収集・処理」となっており、生活基盤や魅力的な地域資源への評価が高いことがうかがえます。一方で、下位の項目は、「交通機関」「労働環境」「保健医療」となっています。重要度の上位3件は、「消防・防災」「保健医療」「自然環境」となっており、安全・安心や魅力的な地域資源の充実・確保へのニーズが高いことがうかがえます。一方で、下位の項目は、「町営住宅」「情報通信」「スポーツ」となっています。

設問文	散布図表記	満足度	重要度
(1)火災や地震など災害からの安全性	消防・防災	△ ⁴ 2.77	① 4.24
(2)防犯、交通安全施設整備の状況	防犯・交通安全	2.99	⑤ 3.98
(3)騒音・振動・悪臭等の環境	生活環境	3.38	3.80
(4)ごみの収集・処理の状況	ごみ収集・処理	③ 3.83	④ 4.06
(5)上水道の整備状況	上水道	① 3.98	3.97
(6)下水道の整備状況(合併浄化槽を含む)	下水道	2.99	3.82
(7)墓地や火葬場の管理・運営状況	墓地・火葬場	④ 3.64	△ ¹ 3.52
(8)町営住宅の整備状況	町営住宅	2.95	3.11
(9)公園・緑地・広場の整備状況	公園・緑地・広場	2.89	△ ⁵ 3.44
(10)道路の整備状況	道路整備	2.96	3.84
(11)交通機関の便利さ	交通機関	△ ¹ 2.23	3.85
(12)インターネット環境など情報通信体系の整備状況	情報通信	2.89	△ ² 3.35
(13)自然環境の豊かさ	自然環境	② 3.92	③ 4.08
(14)保健・医療サービスや施設整備の状況	保健医療	△ ³ 2.69	② 4.14
(15)福祉サービスや施設整備の状況	福祉	2.83	3.97
(16)保育・子育て環境	保育・子育て	2.98	3.77
(17)日常の買物の便利さ	買物利便性	△ ⁴ 2.77	3.94
(18)働きがいのある職場	労働環境	△ ² 2.34	3.93
(19)生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	生涯学習、芸術・文化	2.90	△ ⁴ 3.41
(20)スポーツ活動や施設整備の状況	スポーツ	2.80	△ ³ 3.38
(21)子どもの教育環境	教育	2.88	3.84
(22)人権尊重の状況	人権	3.07	3.58
(23)人情味や地域の連帯感	地域	3.40	3.82
(24)公民館や集会所などの整備状況	コミュニティ施設	⑤ 3.51	3.64
(25)行政情報や催事情報の提供状況	広報	3.32	3.58
平均		3.08	3.76

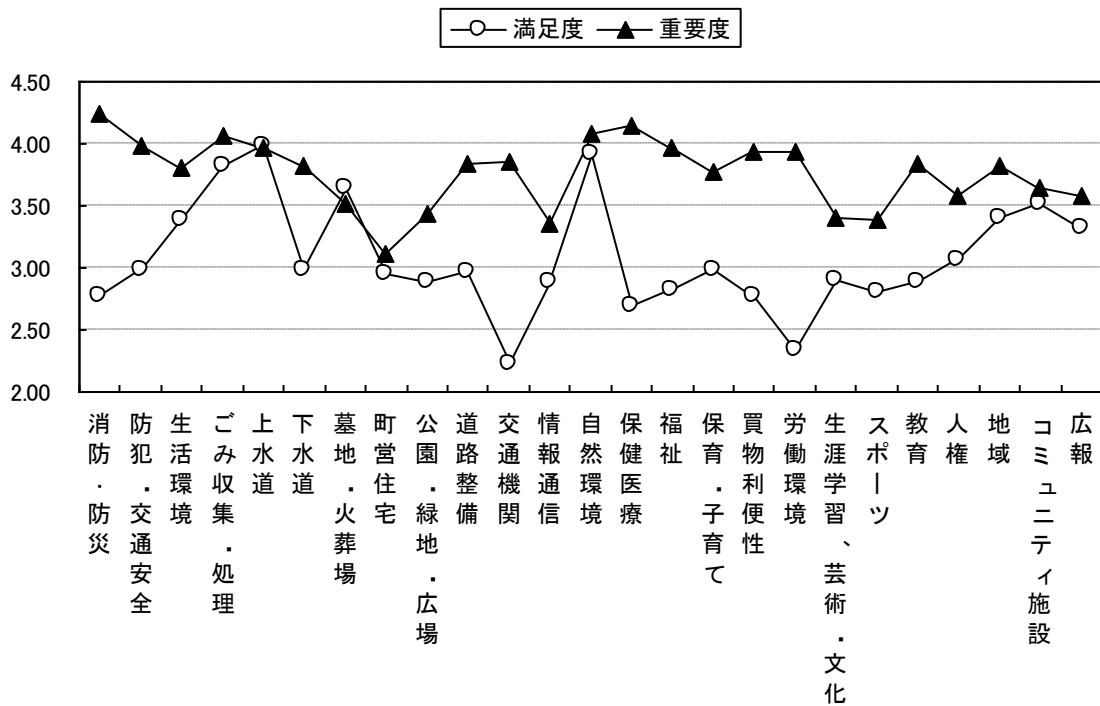
※○の数字は上位の項目を、△の数字は下位の項目を表しています。

		1位	2位	3位
満足度	上位	上水道(3.98)	自然環境(3.92)	ごみ収集・処理(3.83)
	下位	交通機関(2.23)	労働環境(2.34)	保健医療(2.69)
重要度	上位	消防・防災(4.24)	保健医療(4.14)	自然環境(4.08)
	下位	町営住宅(3.11)	情報通信(3.35)	スポーツ(3.38)

※ () 内の数値は点数を表しています。

【4】満足度・重要度の比較

満足度と重要度を比較すると、「上水道」「自然環境」「墓地・火葬場」「町営住宅」「コミュニティ施設」では、近い値となっており、一方で「消防・防災」「防犯・交通安全」「下水道」「道路整備」「交通機関」「保健医療」「福祉」「保育・子育て」「買物利便性」「労働環境」「教育」などでは、点数に大きな開きが見られ、こうした項目について、満足度を高めることで点数差を埋めていく必要があります。



【5】回答者の属性別の満足度・重要度

① 年代別

満足度を年齢別で見ると、すべての年代で「自然環境」「上水道」「ごみ収集・処理」の満足度が高くなっていますが、特に若い世代ほど「自然環境」の満足度が高く、魅力的な地域資源への評価が高い傾向にあります。一方、高齢になるほど「上水道」「ごみ収集・処理」の満足度が高く、生活基盤への評価が高いことがうかがえます。

重要度を年齢別で見ると、すべての年代で「消防・防災」が最上位となっており、災害に対する危機感が高い傾向がうかがえます。また、若い世代ほど「労働環境」の重要度が高く、就労ニーズが高いことがうかがえます。

■年代別

			1位	2位	3位
満足度	全体	上位	上水道(3.98)	自然環境(3.92)	ごみ収集・処理(3.83)
		下位	交通機関(2.23)	労働環境(2.34)	保健医療(2.69)
	20代～30代	上位	自然環境(4.20)	上水道(3.81)	ごみ収集・処理(3.64)
		下位	交通機関(1.97)	保健医療(2.32)	労働環境(2.42)
	40代～50代	上位	自然環境(3.99)	上水道(3.86)	ごみ収集・処理(3.71)
		下位	交通機関(1.99)	労働環境(2.24)	保健医療(2.34)
	60代以上	上位	上水道(4.09)	ごみ収集・処理(3.94)	自然環境(3.79)
		下位	労働環境(2.40)	交通機関(2.45)	買物利便性(2.83)
重要度	全体	上位	消防・防災(4.24)	保健医療(4.14)	自然環境(4.08)
		下位	町営住宅(3.11)	情報通信(3.35)	スポーツ(3.38)
	20代～30代	上位	消防・防災(4.20)	保健医療(4.20)	労働環境(4.18)
		下位	町営住宅(3.20)	スポーツ(3.35)	墓地・火葬場(3.36)
	40代～50代	上位	消防・防災(4.36)	保健医療(4.23)	労働環境(4.13)
		下位	町営住宅(3.07)	墓地・火葬場(3.39)	公園・緑地・広場(3.41)
	60代以上	上位	消防・防災(4.18)	上水道(4.14)	ごみ収集・処理(4.13)
		下位	町営住宅(3.12)	情報通信(3.13)	スポーツ(3.31)

② 定住意向別

満足度を定住意向別で見ると、定住意向に関わらず上位3項目は「上水道」「自然環境」「ごみ収集・処理」となっていますが、「はい（住み続けたい）」では「いいえ（住み続けたくない）」よりもそれぞれの満足度が高い傾向がうかがえます。

重要度を定住意向別で見ると、「はい（住み続けたい）」では「自然環境」の重要度が高くなっており、定住意向の高い人は豊かな自然環境を重視するとともに、紀北町の自然環境を高く評価していることがうかがえます。一方、「いいえ（住み続けたくない）」では「労働環境」の重要度が高いものの、満足度と合わせると、紀北町の労働環境への評価は低いことがうかがえます。

■ 定住意向別

			1位	2位	3位
満足度	全体	上位	上水道(3.98)	自然環境(3.92)	ごみ収集・処理(3.83)
		下位	交通機関(2.23)	労働環境(2.34)	保健医療(2.69)
	はい(住み続けたい)	上位	上水道(4.05)	自然環境(3.97)	ごみ収集・処理(3.95)
		下位	交通機関(2.35)	労働環境(2.42)	保健医療(2.85)
	いいえ(住み続けたくない)	上位	自然環境(3.88)	上水道(3.81)	ごみ収集・処理(3.51)
		下位	交通機関(1.67)	労働環境(1.83)	買物利便性(2.16)
	わからない	上位	上水道(3.83)	自然環境(3.82)	ごみ収集・処理(3.54)
		下位	交通機関(2.00)	労働環境(2.16)	保健医療(2.34)
重要度	全体	上位	消防・防災(4.24)	保健医療(4.14)	自然環境(4.08)
		下位	町営住宅(3.11)	情報通信(3.35)	スポーツ(3.38)
	はい(住み続けたい)	上位	消防・防災(4.30)	保健医療(4.16)	自然環境(4.15)
		下位	町営住宅(3.13)	情報通信(3.27)	スポーツ(3.38)
	いいえ(住み続けたくない)	上位	労働環境(4.43)	保健医療(4.29)	消防・防災(4.21)
		下位	町営住宅(3.02)	生涯学習、芸術・文化(3.19)	スポーツ(3.26)
	わからない	上位	消防・防災(4.17)	保健医療(4.05)	買物利便性(3.94)
		下位	町営住宅(3.10)	公園・緑地・広場(3.36)	墓地・火葬場(3.39)

【6】満足度・重要度一覧

満足度・重要度を経年で見ると、「消防・防災」では前回調査・今回調査ともに重要度が最上位であるとともに、満足度が0.34ポイント上昇しています。一方、「買い物利便性」では前回調査から重要度が0.13ポイント上昇しているものの、満足度が-0.13ポイント下降しています。

設問文	満足度			重要度		
	今回調査	前回調査	増減	今回調査	前回調査	増減
(1)火災や地震など災害からの安全性	2.77	2.43	① 0.34	① 4.24	① 4.26	-0.02
(2)防犯、交通安全施設整備の状況	2.99	2.83	0.16	⑤ 3.98	④ 3.96	0.02
(3)騒音・振動・悪臭等の環境	3.38	⑤ 3.32	0.06	3.80	3.67	① 0.13
(4)ごみの収集・処理の状況	③ 3.83	③ 3.70	0.13	④ 4.06	④ 3.96	⑤ 0.10
(5)上水道の整備状況	① 3.98	② 3.80	⑤ 0.18	3.97	3.94	0.03
(6)下水道の整備状況(合併浄化槽を含む)	2.99	2.80	③ 0.19	3.82	3.83	-0.01
(7)墓地や火葬場の管理・運営状況	④ 3.64	-	-	3.52	-	-
(8)町営住宅の整備状況	2.95	-	-	3.11	-	-
(9)公園・緑地・広場の整備状況	2.89	2.79	0.10	3.44	3.57	△-0.13
(10)道路の整備状況	2.96	2.77	③ 0.19	3.84	3.84	0.00
(11)交通機関の利便さ	2.23	2.15	0.08	3.85	3.80	0.05
(12)インターネット環境など情報通信体系の整備状況	2.89	2.94	△-0.05	3.35	3.31	0.04
(13)自然環境の豊かさ	② 3.92	① 4.03	△-0.11	③ 4.08	② 4.15	△-0.07
(14)保健・医療サービスや施設整備の状況	2.69	2.61	0.08	② 4.14	③ 4.03	④ 0.11
(15)福祉サービスや施設整備の状況	2.83	2.91	△-0.08	3.97	3.88	0.09
(16)保育・子育て環境	2.98	2.95	0.03	3.77	3.84	△-0.07
(17)日常の買物の利便さ	2.77	2.90	△-0.13	3.94	3.81	① 0.13
(18)働きがいのある職場	2.34	2.25	0.09	3.93	④ 3.96	-0.03
(19)生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	2.90	3.02	△-0.12	3.41	3.45	△-0.04
(20)スポーツ活動や施設整備の状況	2.80	2.78	0.02	3.38	3.38	0.00
(21)子どもの教育環境	2.88	2.83	0.05	3.84	3.88	△-0.04
(22)人権尊重の状況	3.07	-	-	3.58	-	-
(23)人情味や地域の連帯感	3.40	④ 3.42	-0.02	3.82	3.77	0.05
(24)公民館や集会所などの整備状況	⑤ 3.51	3.25	② 0.26	3.64	3.51	① 0.13
(25)行政情報や催事情報の提供状況	3.32	3.16	0.16	3.58	3.54	0.04
平均	3.08	2.98	0.10	3.76	3.79	-0.03

※○の数字は上位の項目を表します。「増減」の欄では、○の数字はプラスの大きい順番、△の数字はマイナスの大きい順番を表しています。

【7】 目標指標との比較

満足度について、前期計画で設定した目標値と比較すると「消防・防災」「ごみ収集・処理」「上水道」「道路整備」「コミュニティ施設」「広報」では目標を達成しています。

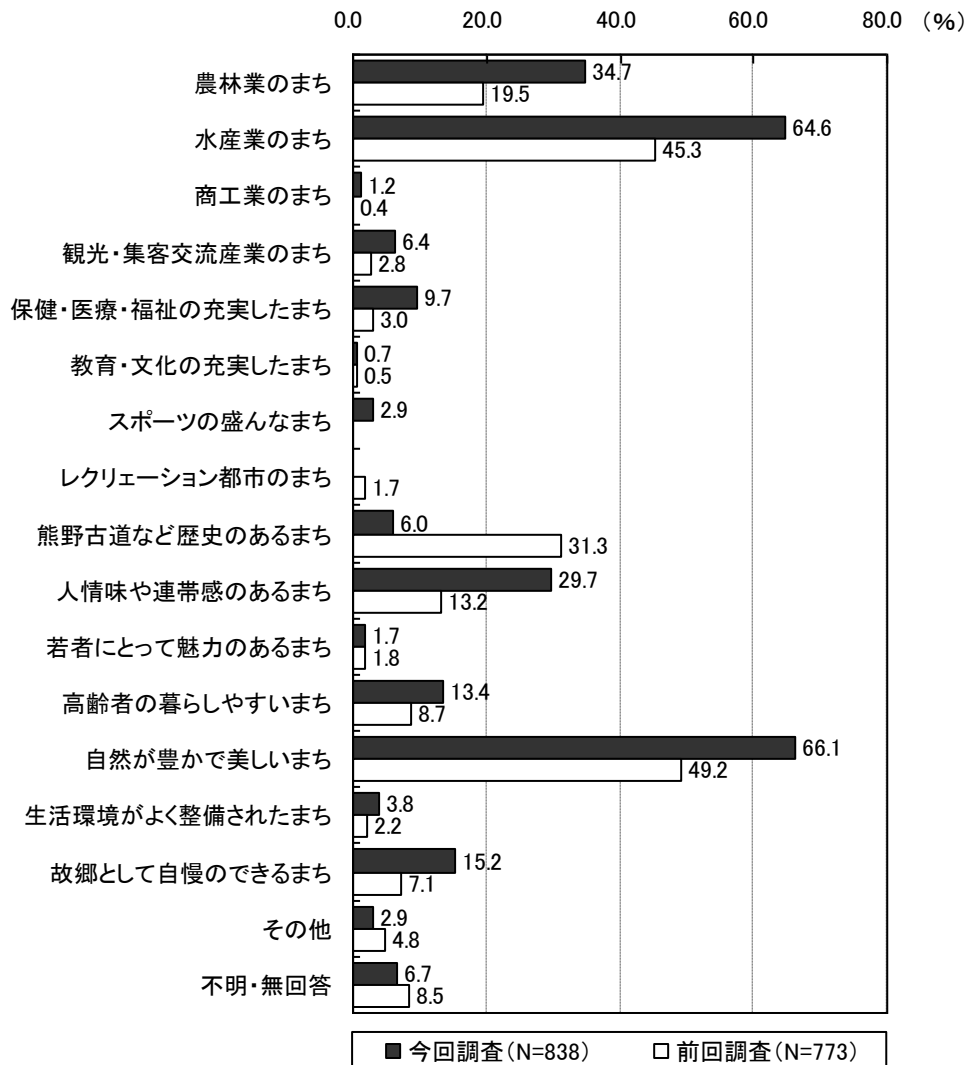
	平成18年度	平成22年度	比較	平成23年度	平成22年度	達成度
	前回調査	今回調査		目標値	目標値換算	
	①	②		②-①=③	④	
(1) 火災や地震など災害からの安全性	35.8	44.2	8.4	43.0	41.6	106.4%
(2) 防犯、交通安全施設整備の状況	45.6	49.7	4.1	52.0	50.7	98.0%
(3) 騒音・振動・悪臭等の環境	58.1	59.5	1.4	63.0	62.0	95.9%
(4) ごみの収集・処理の状況	67.6	70.7	3.1	71.0	70.3	100.5%
(5) 上水道の整備状況	70.0	74.4	4.4	74.0	73.2	101.6%
(6) 下水道の整備状況（合併浄化槽を含む）	45.0	49.7	4.7	51.0	49.8	99.8%
(7) 墓地や火葬場の管理・運営状況		65.9				
(8) 町営住宅の整備状況		48.8				
(9) 公園・緑地・広場の整備状況	44.7	47.3	2.6	51.0	49.7	95.1%
(10) 道路の整備状況	44.2	49.1	4.9	50.0	48.8	100.5%
(11) 交通機関の便利さ	28.7	30.8	2.1	36.0	34.5	89.2%
(12) インターネット環境など情報通信体系の整備状況	48.4	47.3	-1.1	54.0	52.9	89.4%
(13) 自然環境の豊かさ	75.5	73.0	-2.5	79.0	78.3	93.2%
(14) 保健・医療サービスや施設整備の状況	40.4	42.2	1.8	47.0	45.7	92.4%
(15) 福祉サービスや施設整備の状況	47.7	45.9	-1.8	53.0	51.9	88.4%
(16) 保育・子育て環境	48.8	49.5	0.7	54.0	53.0	93.5%
(17) 日常の買物の便利さ	47.5	44.2	-3.3	53.0	51.9	85.2%
(18) 働きがいのある職場	31.4	33.6	2.2	39.0	37.5	89.6%
(19) 生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	50.6	47.5	-3.1	56.0	54.9	86.5%
(20) スポーツ活動や施設整備の状況	44.6	45.0	0.4	51.0	49.7	90.5%
(21) 子どもの教育環境	45.7	47.0	1.3	52.0	50.7	92.6%
(22) 人権尊重の状況		51.7				
(23) 人情味や地域の連帯感	60.6	60.0	-0.6	65.0	64.1	93.6%
(24) 公民館や集会所などの整備状況	56.3	62.7	6.4	61.0	60.1	104.4%
(25) 行政情報や催事情報の提供状況	54.0	58.1	4.1	59.0	58.0	100.2%

※目標指標では、100点満点を採用し、設定しており、「満足している」=100点、「やや満足している」=75点、「どちらともいえない」=50点、「やや不満」=25点、「不満である」=0点として、合計点数を「不明・無回答」を除く件数で除して算出しています。

3. 紀北町のこれからのまちづくりについて

問1. あなたは、紀北町のイメージをどのように思っていますか。(複数回答)

紀北町のイメージは、「自然が豊かで美しいまち」が 66.1%、次いで「水産業のまち」が 64.6%と、この2つが群を抜いて高く、次に「農林業のまち」が 34.7%、「人情味や連帯感のあるまち」が 29.7%となっており、自然環境や農林水産業と合わせ、地域のつながりのあるまちというイメージを持っていることがうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」が上位2位となっていますが、今回調査では「農林業のまち」が、前回調査では「熊野古道など歴史のあるまち」が3位となっており、前回調査が世界遺産登録の時期であったことが影響しているものと思われます。



※この設問は、選択可能な選択肢の数が、前回調査の「2つまで」から今回調査では「3つまで」に変更しています。

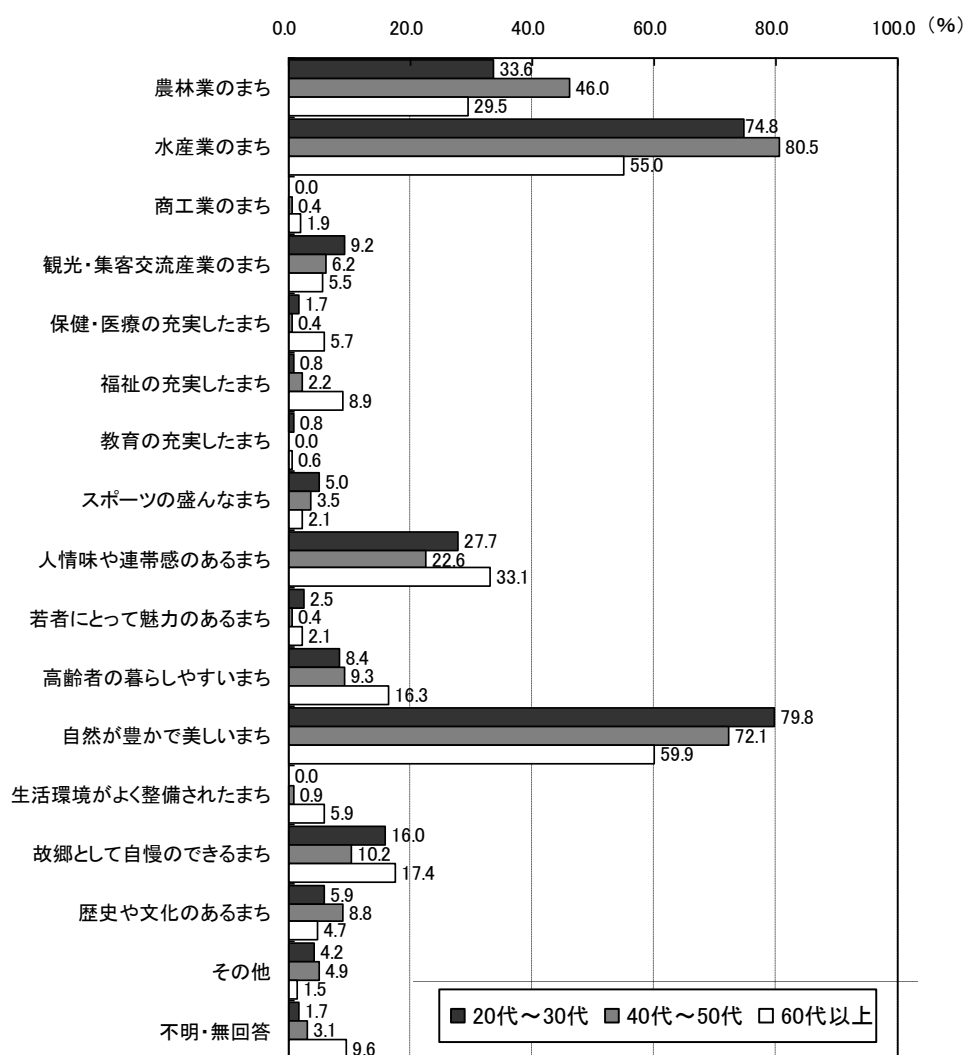
	1位	2位	3位
今回調査	自然が豊かで美しいまち (66.1%)	水産業のまち (64.6%)	農林業のまち (34.7%)
前回調査	自然が豊かで美しいまち (49.2%)	水産業のまち (45.3%)	熊野古道など歴史のある まち (31.3%)

問1×年代別

紀北町のイメージを年代別で見ると、20～30代では「自然が豊かで美しいまち」が最も高く79.8%、次いで「水産業のまち」が74.8%、「農林業のまち」が33.6%となっており、自然や農林水産業のまちというイメージを持っていることがうかがえます。

40～50代では「水産業のまち」が最も高く80.5%、次いで「自然が豊かで美しいまち」が72.1%と、上位2件の順位が逆転しています。一方、「人情味や連帯感のあるまち」「故郷として自慢できるまち」では、他の年代よりも割合が低くなっており、まちへの愛着が薄い傾向が見られます。

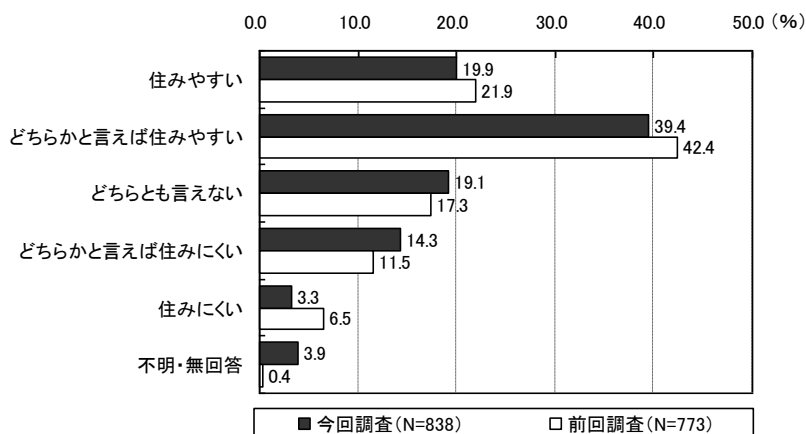
60代以上では「人情味や連帯感のあるまち」「高齢者の暮らしやすいまち」「故郷として自慢できるまち」などが他の年代と比較して高く、現状への満足感を持っていることがうかがえます。



	1位	2位	3位
全体	自然が豊かで美しいまち (66.1%)	水産業のまち (64.6%)	農林業のまち (34.7%)
20代～30代	自然が豊かで美しいまち (79.8%)	水産業のまち (74.8%)	農林業のまち (33.6%)
40代～50代	水産業のまち (80.5%)	自然が豊かで美しいまち (72.1%)	農林業のまち (46.0%)
60代以上	自然が豊かで美しいまち (59.9%)	水産業のまち (55.0%)	人情味や連帯感のあるまち (33.1%)

問2. あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか。

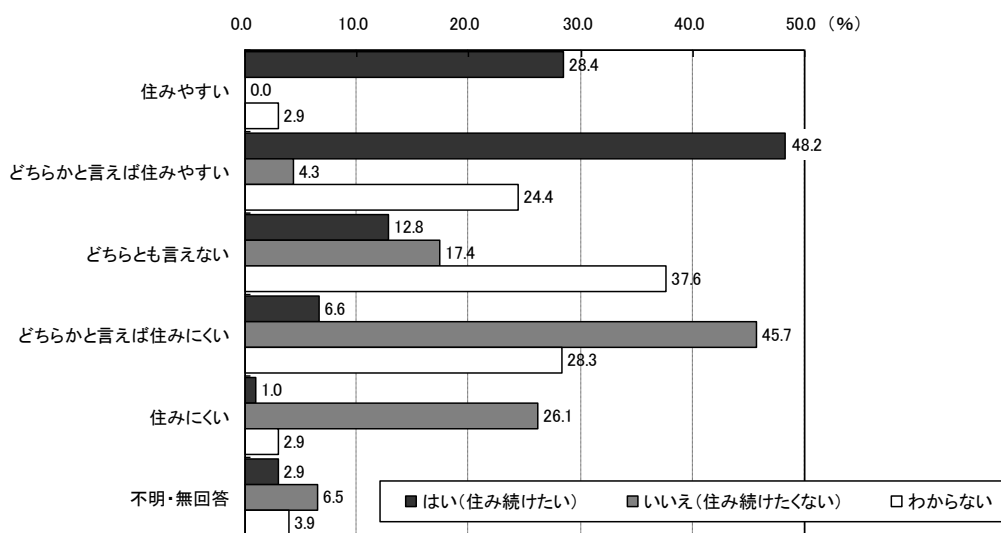
紀北町の住みやすさは、「どちらかと言えば住みやすい」が39.4%、「住みやすい」が19.9%と、『住みやすい（「住みやすい」と「どちらかと言えば住みやすい」の合計）』という意見が59.3%、『住みにくい（「住みにくい」と「どちらかと言えば住みにくい」の合計）』が17.6%と回答しています。また、「どちらとも言えない」が19.1%となっていることから、『住みやすい』『住みにくい』という判断を下すことが難しいことがうかがえます。前回調査と比較すると、今回調査では『住みやすい』『住みにくい』ともに割合が低くなり、「どちらとも言えない」が高くなっています。



	『住みやすい 合計』	どちらとも言えない	『住みにくい 合計』
今回調査	59.3%	19.1%	17.6%
前回調査	64.3%	17.3%	18.0%

問2×定住意向別

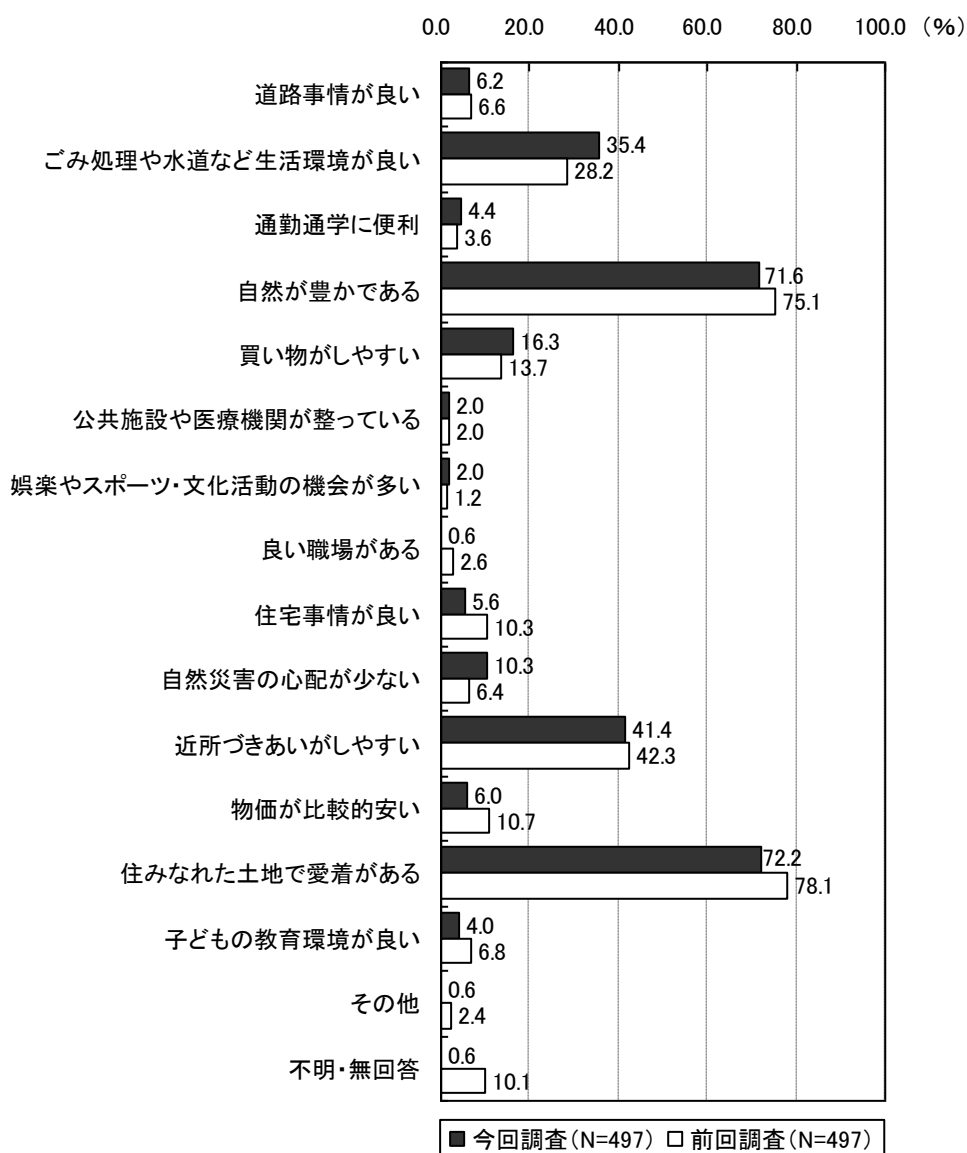
紀北町の住みやすさを定住意向別で見ると、「はい（住み続けたい）」では、『住みやすい』が76.6%と大半を占めているのに対し、「いいえ（住み続けたくない）」では4.3%と非常に低くなっています。また、「わからない」では「どちらとも言えない」の割合が最も高く、定住意向別で住みやすさの感じ方に違いが見られます。



	『住みやすい 合計』	どちらとも言えない	『住みにくい 合計』
全体	59.3%	19.1%	17.6%
はい (住み続けたい)	76.6%	12.8%	7.6%
いいえ (住み続けたくない)	4.3%	17.4%	71.8%
わからない	27.3%	37.6%	31.2%

問3.【問2で「1. 住みやすい」「2. どちらかと言えば住みやすい」と回答された方におうかがいします。】その理由は何ですか。（複数回答）

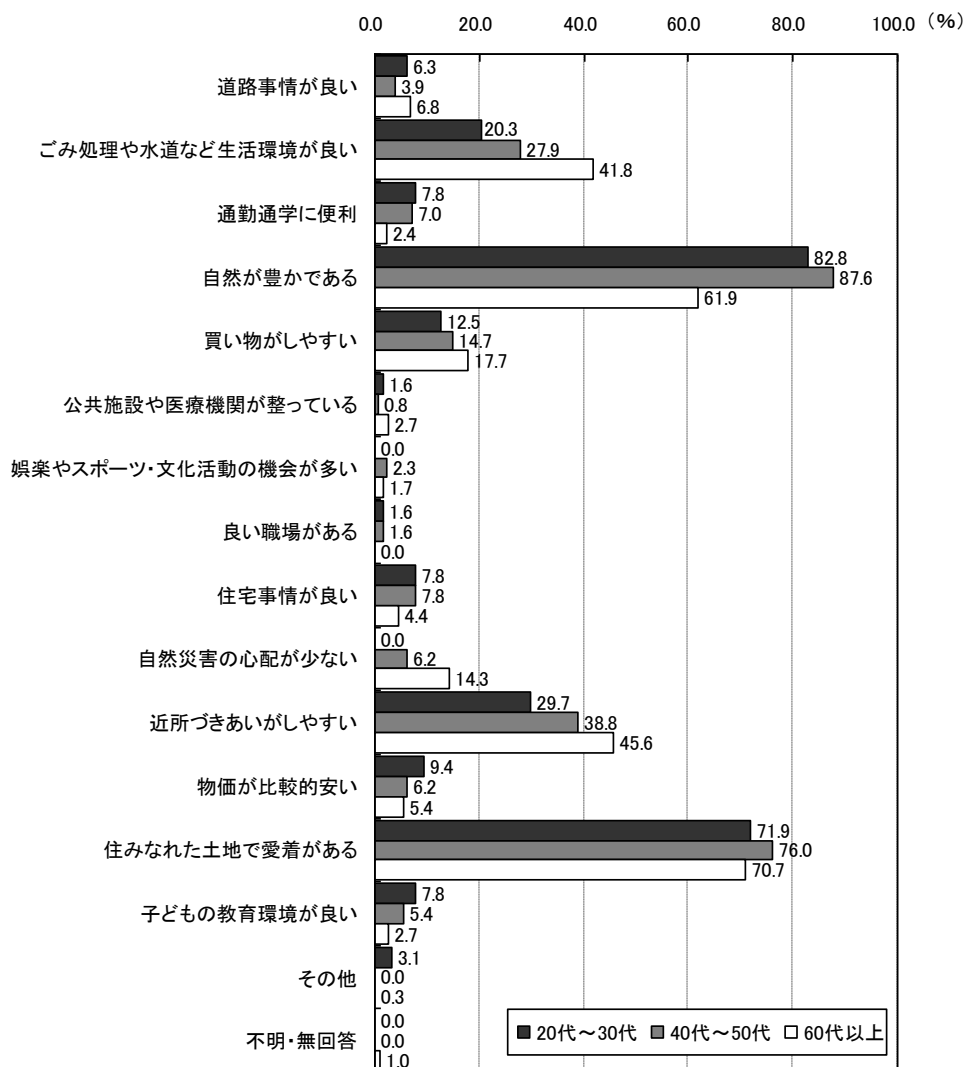
『住みやすい理由』は、「住みなれた土地で愛着がある」が72.2%、次いで「自然が豊かである」が71.6%と、この2つが群を抜いて高く、次いで「近所づきあいがしやすい」が41.4%、「ゴミ処理や水道など生活環境が良い」が35.4%となっています。自然環境や生活環境等への満足度から『住みやすい』と回答していることがうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「住みなれた土地で愛着がある」「自然が豊かである」「近所づきあいがしやすい」が上位を占めており、「ゴミ処理や水道など生活環境が良い」では、割合が高くなっています。



	1位	2位	3位
今回調査	住みなれた土地で愛着がある (72.2%)	自然が豊かである (71.6%)	近所づきあいがしやすい (41.4%)
前回調査	住みなれた土地で愛着がある (78.1%)	自然が豊かである (75.1%)	近所づきあいがしやすい (42.3%)

問3×年代別

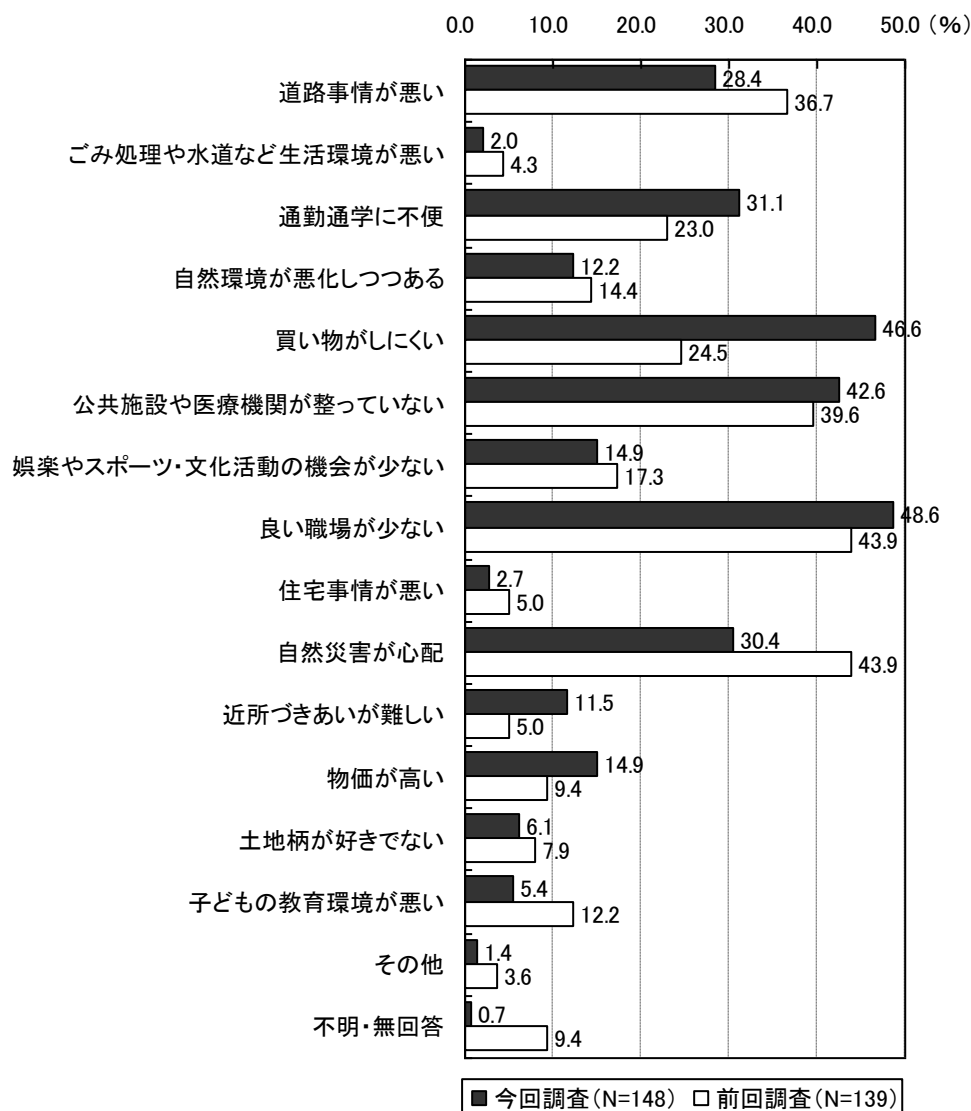
『住みやすい理由』を年代別で見ると、「住みなれた土地で愛着がある」では、すべての年代で7割を超えているのに対し、「自然が豊かである」では60代以上の割合が他の年代に比べて低く、「ゴミ処理や水道など生活環境が良い」や「近所づきあいがしやすい」の割合が高くなっています。一方で、若い年代ほど「ゴミ処理や水道など生活環境が良い」や「近所づきあいがしやすい」の割合が低く、便利な生活を求めていることや、近所づきあいのわずらわしさを感じている人が多いことがうかがえます。



	1位	2位	3位
全体	住みなれた土地で愛着がある (72.2%)	自然が豊かである (71.6%)	近所づきあいがしやすい (41.4%)
20代～30代	自然が豊かである (82.8%)	住みなれた土地で愛着がある (71.9%)	近所づきあいがしやすい (29.7%)
40代～50代	自然が豊かである (87.6%)	住みなれた土地で愛着がある (76.0%)	近所づきあいがしやすい (38.8%)
60代以上	住みなれた土地で愛着がある (70.7%)	自然が豊かである (61.9%)	近所づきあいがしやすい (45.6%)

問4.【問2で「4. どちらかと言えば住みにくい」「5. 住みにくい」と回答された方におうかがいします。】その理由は何ですか。(複数回答)

『住みにくい理由』は、「良い職場が少ない」「買い物がしにくい」「公共施設や医療機関が整っていない」が4割を超えており、次いで「通勤通学に不便」「自然災害が心配」「道路事情が悪い」が3割前後となっています。生活の利便性や安全・安心に関するものが高くなっており、生活の安定という面で『住みにくい』と感じている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、「良い職場が少ない」「公共施設や医療機関が整っていない」が今回調査でも上位を占めていますが、前回調査では「自然災害が心配」が2位だったのに対し、今回調査では「買い物がしにくい」が2位となっています。「自然災害が心配」「道路事情が悪い」などでは、割合が低くなったものの、「買い物がしにくい」「良い職場が少ない」などの割合が高くなっています。

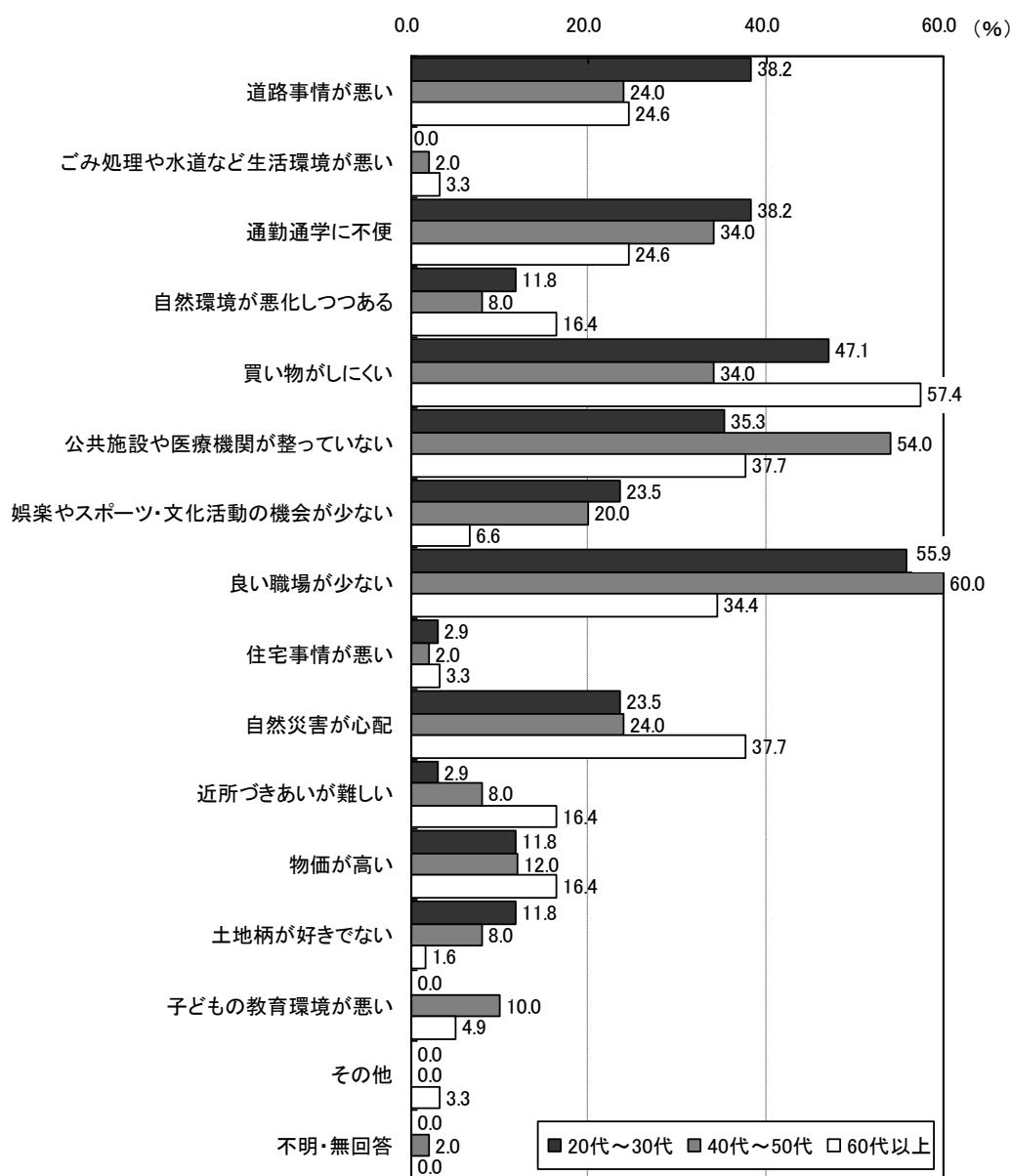


	1位	2位	3位
今回調査	良い職場が少ない (48.6%)	買い物がしにくい (46.6%)	公共施設や医療機関が整っていない (42.6%)
前回調査	良い職場が少ない (43.9%)	自然災害が心配 (43.9%)	公共施設や医療機関が整っていない (39.6%)

※前回調査の1位と2位は同率2位となっています。

問4×年代別

『住みにくい理由』を年代別で見ると、20～30代、40～50代では「良い職場が少ない」が最も高くなっており、自分自身や子ども世代の就労面の不安を感じている傾向がうかがえます。60代以上では「買い物 がしにくい」「自然災害が心配」の割合が他の世代に比べて高くなっています。

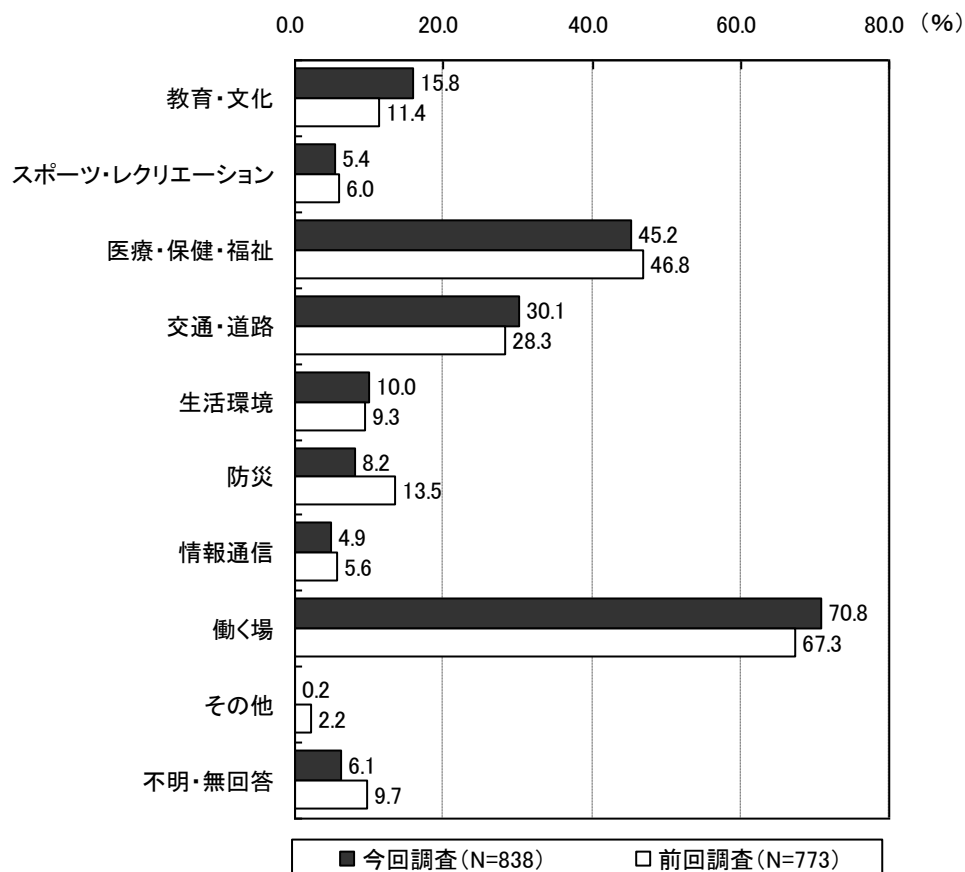


	1位	2位	3位
全体	良い職場が少ない (48.6%)	買い物 がしにくい (46.6%)	公共施設や医療機関が 整っていない (42.6%)
20代～30代	良い職場が少ない (55.9%)	買い物 がしにくい (47.1%)	道路事情が悪い (38.2%) 通勤通学に不便 (38.2%)
40代～50代	良い職場が少ない (60.0%)	公共施設や医療機関が 整っていない (54.0%)	通勤通学に不便 (34.0%) 買い物 がしにくい (34.0%)
60代以上	買い物 がしにくい (57.4%)	公共施設や医療機関が 整っていない (37.7%)	自然災害が心配 (37.7%)

※20代～30代、40代～50代の3位は同率で2項目が該当し、60代以上の2位と3位は同率2位となっています。

問5 紀北町が三重県下の他の市町と比べ、遅れている分野があるとすれば、どういう面だと思いますか。(複数回答)

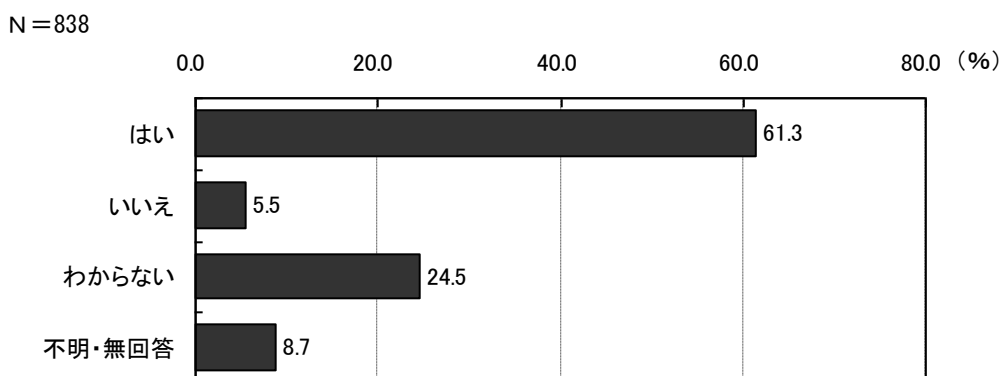
他市町に比べて遅れている分野については、「働く場」が70.8%と群を抜いて高くなっており、次いで「医療・保健・福祉」が45.2%、「交通・道路」が30.1%となっています。これらの分野は、他市町に依存していたり、現状に満足していないという傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「働く場」「医療・保健・福祉」「交通・道路」などが上位を占めており、「防災」では割合が低くなっています。



	1位	2位	3位
今回調査	働く場 (70.8%)	医療・保健・福祉 (45.2%)	交通・道路 (30.1%)
前回調査	働く場 (67.3%)	医療・保健・福祉 (46.8%)	交通・道路 (28.3%)

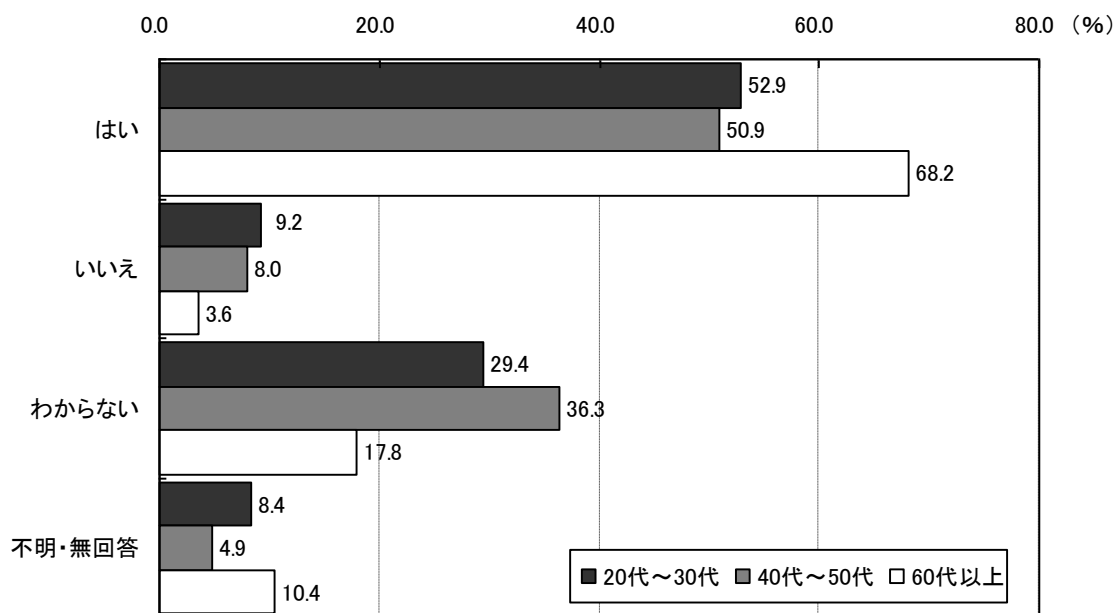
問6. 今後も紀北町に住み続けたいと思いますか。

定住意向については、「はい（住み続けたい）」が61.3%となっており、「いいえ（住み続けたくない）」の5.5%を大きく上回っています。一方で「わからない」が24.5%と、4分の1程度が定住するかどうか、決めかねている状況がうかがえます。



問6×年代別

定住意向を年代別で見ると、「はい（住み続けたい）」がすべての年代で最も高くなっていますが、回答者の多くを占める60代以上で68.2%となっているため、全体の割合を引き上げていると思われます。また、40～50代で「わからない」が3分の1以上となっており、子育て後、退職後に住み続けるかどうかの判断がつきにくい状況がうかがえます。

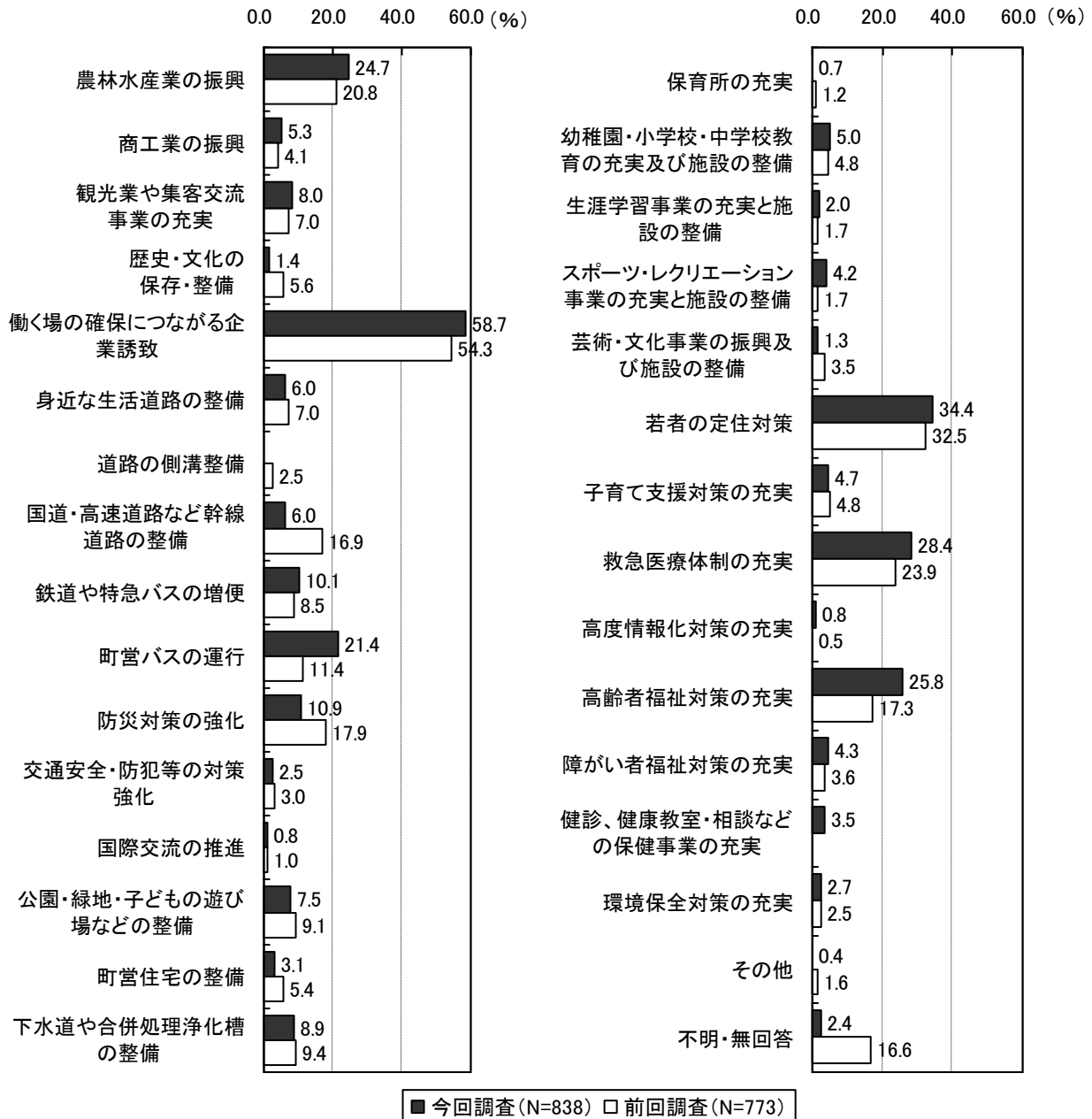


	1位	2位	3位
全体	はい (61.3%)	わからない (24.5%)	いいえ (5.5%)
20代～30代	はい (52.9%)	わからない (29.4%)	いいえ (9.2%)
40代～50代	はい (50.9%)	わからない (36.3%)	いいえ (8.0%)
60代以上	はい (68.2%)	わからない (17.8%)	いいえ (3.6%)

※順位からは、不明・無回答は除いています。

問7. 今後、紀北町に対して特に力を入れてほしいと思う施策はどれですか。(複数回答)

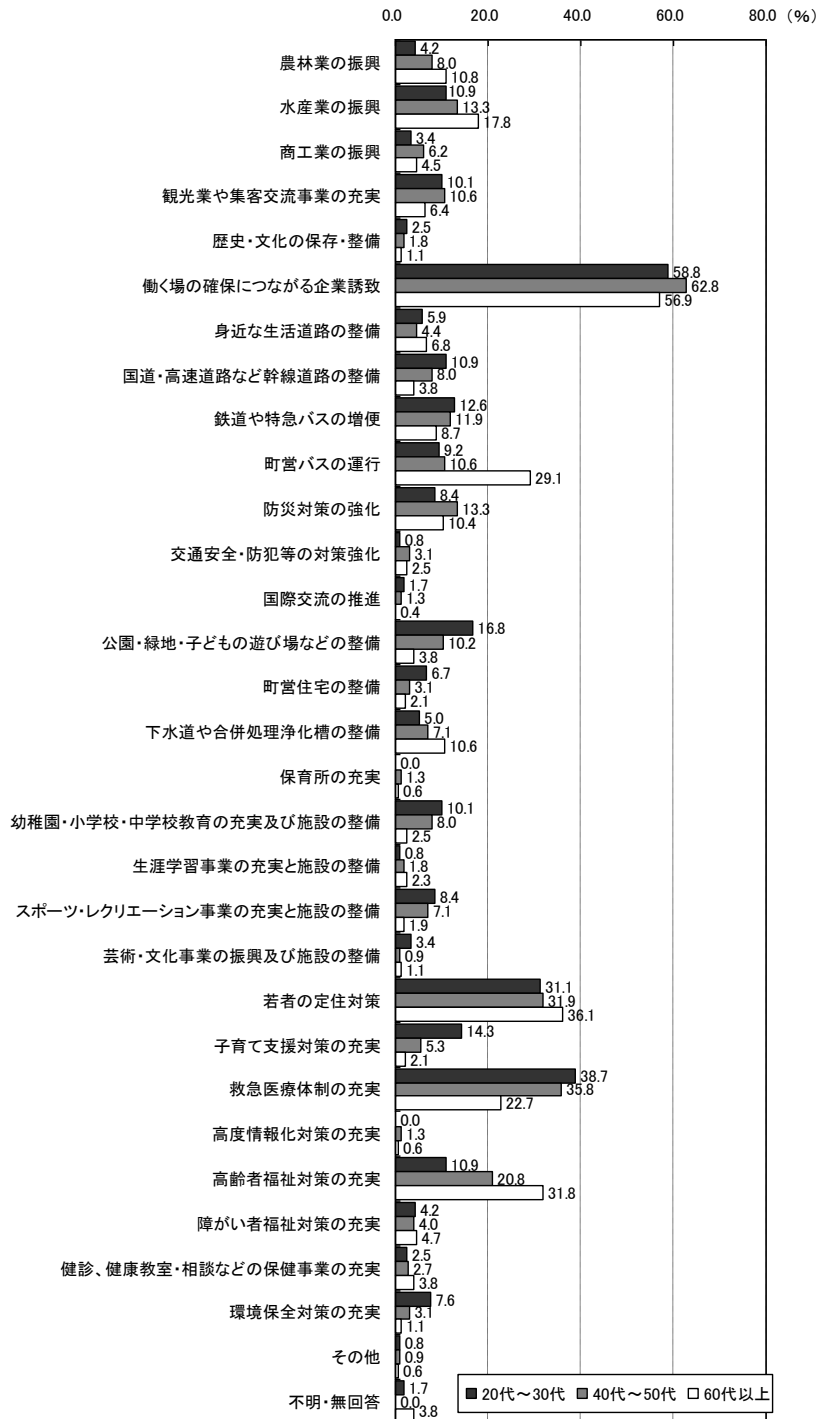
特に力を入れてほしいと思う施策については、「働く場の確保につながる企業誘致」が 58.7%と群を抜いて高くなっており、次いで「若者の定住対策」が 34.4%、「救急医療体制の充実」が 28.4%、「高齢者福祉対策の充実」が 25.8%、「町営バスの運行」が 21.4%となっています。「働く場の確保につながる企業誘致」や「若者の定住対策」などの主に若い世代への対策と、「高齢者福祉対策の充実」や「町営バスの運行」などの主に高齢層への対策の両面が求められていることがうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「働く場の確保につながる企業誘致」「若者の定住対策」「救急医療体制の充実」などが上位を占めています。「国道・高速道路など幹線道路の整備」「防災対策の強化」では、割合が低くなったものの、「町営バスの運行」「救急医療体制の充実」「高齢者福祉対策の充実」などでは、割合が高くなっています。



	1位	2位	3位
今回調査	働く場の確保につながる企業誘致 (58.7%)	若者の定住対策 (34.4%)	救急医療体制の充実 (28.4%)
前回調査	働く場の確保につながる企業誘致 (54.3%)	若者の定住対策 (32.5%)	救急医療体制の充実 (23.9%)

問7×年代別

特に力を入れてほしいと思う施策を年代別で見ると、すべての年代で「働く場の確保につながる企業誘致」が最も高く、次いで20～30代、40～50代では「救急医療体制の充実」、60代以上では「若者の定住対策」となっています。特に60代以上では「高齢者福祉対策の充実」「町営バスの運行」などの割合が他の年代に比べて高くなっており、高齢期の生活の安心の充実が求められていることがうかがえます。

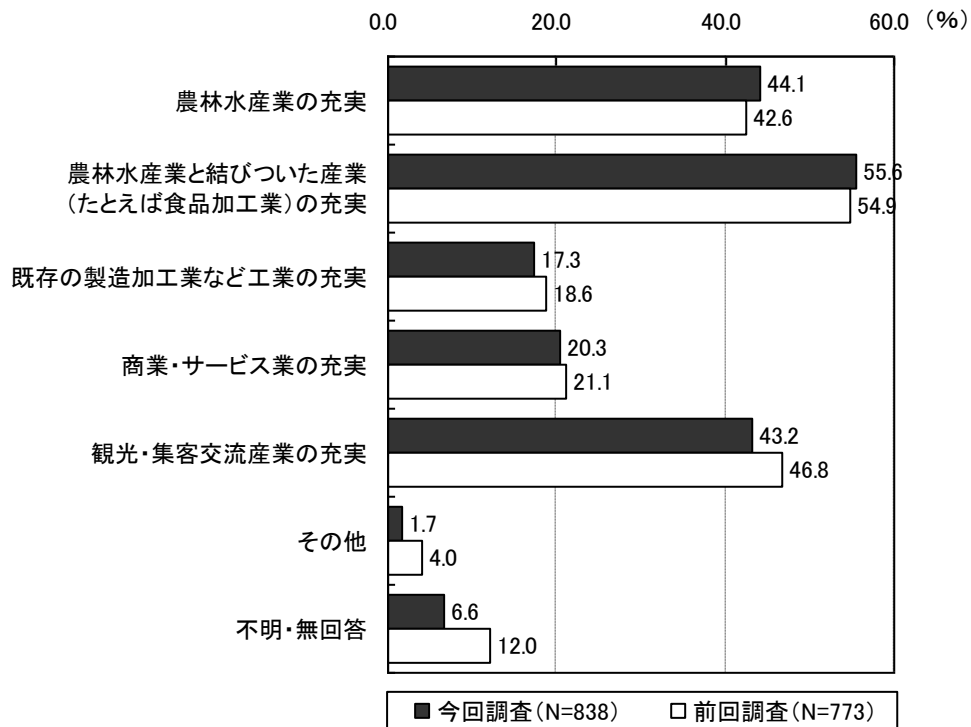


	1位	2位	3位
全体	働く場の確保につながる企業誘致 (58.7%)	若者の定住対策 (34.4%)	救急医療体制の充実 (28.4%)
20代～30代	働く場の確保につながる企業誘致 (58.8%)	救急医療体制の充実 (38.7%)	若者の定住対策 (31.1%)
40代～50代	働く場の確保につながる企業誘致 (62.8%)	救急医療体制の充実 (35.8%)	若者の定住対策 (31.9%)
60代以上	働く場の確保につながる企業誘致 (56.9%)	若者の定住対策 (36.1%)	高齢者福祉対策の充実 (31.8%)

4. 分野別のまちづくりについて

問8. 今後、紀北町はどのような方向で産業の発展を考えていくべきだと思いますか。(複数回答)

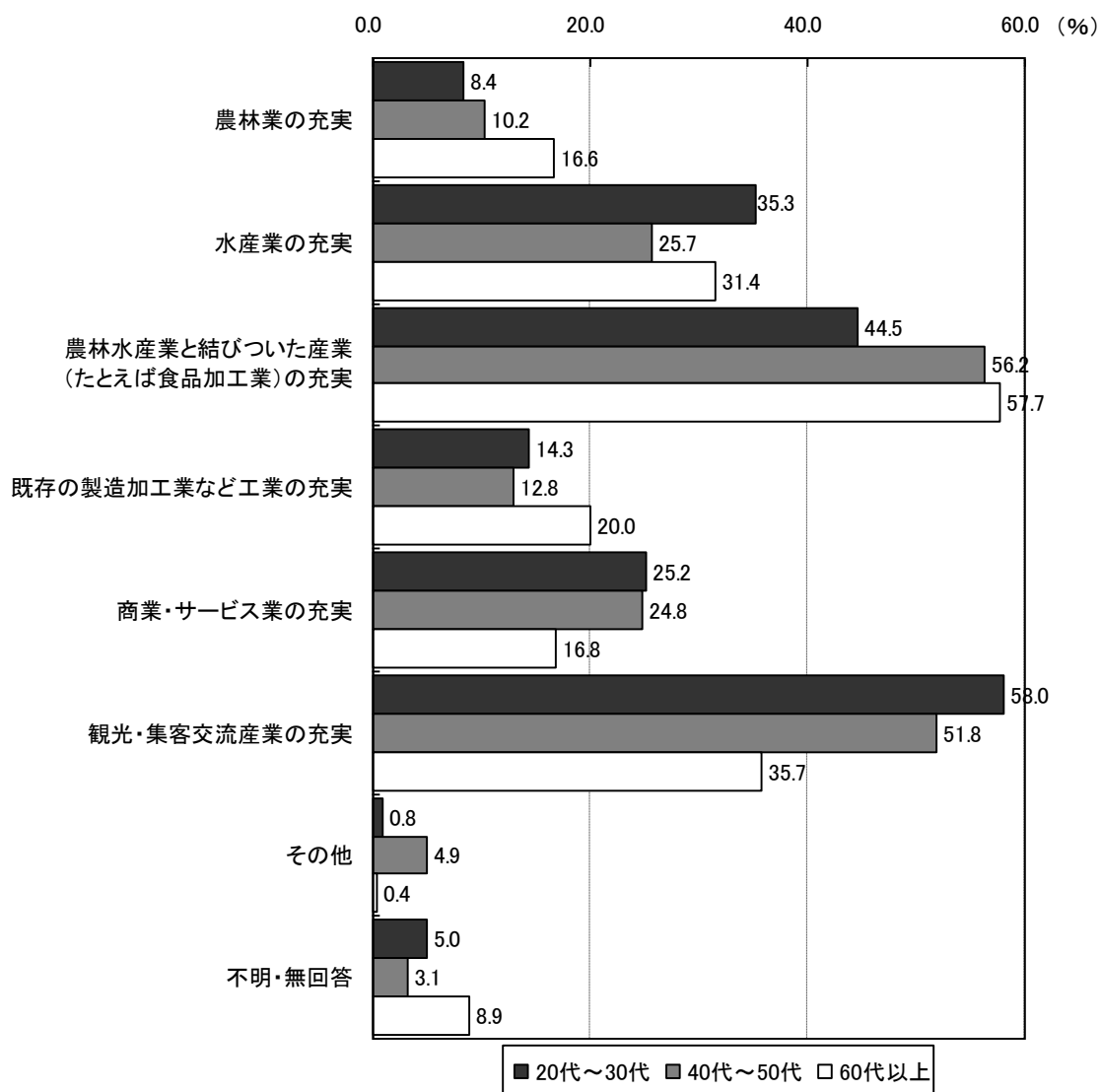
産業の発展の方向は、「農林水産業と結びついた産業の充実」が55.6%と5割以上を占め、次いで「観光・集客交流産業の充実」が43.2%、「水産業の充実」が30.3%となっています。農林水産業等、単体ではなく各産業が連携したものや、まちの地域資源を活かした観光産業等の発展が求められていることがうかがえます。前回調査と比較すると、順位に変動があるものの「農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実」「農林水産業の充実」「観光・集客交流産業の充実」などが上位を占めています。



	1位	2位	3位
今回調査	農林水産業と結びついた産業(たとえば食品加工業)の充実(55.6%)	農林水産業の充実(44.1%)	観光・集客交流産業の充実(43.2%)
前回調査	農林水産業と結びついた産業(たとえば食品加工業)の充実(54.9%)	観光・集客交流産業の充実(46.8%)	農林水産業の充実(42.6%)

問8×年代別

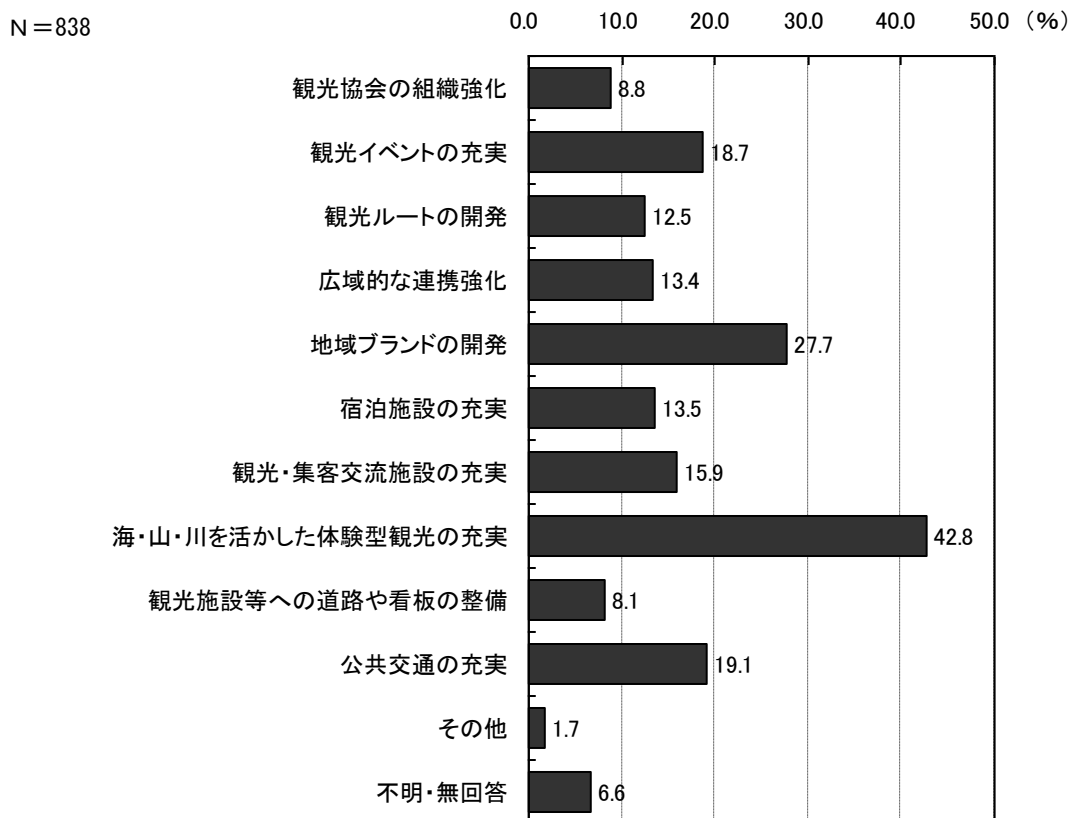
産業の発展の方向を年代別で見ると、20～30代では「観光・集客交流産業の充実」が最も高く、40～50代、60代以上では「農林水産業と結びついた産業の充実」が最も高くなっています。「観光・集客交流産業の充実」では若い年代ほど高く、「農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実」では高齢になるほど高くなっており、年代によって発展の方向性の考え方に違いが見られます。



	1位	2位	3位
全体	農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実（55.6%）	観光・集客交流産業の充実（43.2%）	水産業の充実（30.3%）
20代～30代	観光・集客交流産業の充実（58.0%）	農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実（44.5%）	水産業の充実（35.3%）
40代～50代	農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実（56.2%）	観光・集客交流産業の充実（51.8%）	水産業の充実（25.7%）
60代以上	農林水産業と結びついた産業（たとえば食品加工業）の充実（57.7%）	観光・集客交流産業の充実（35.7%）	水産業の充実（31.4%）

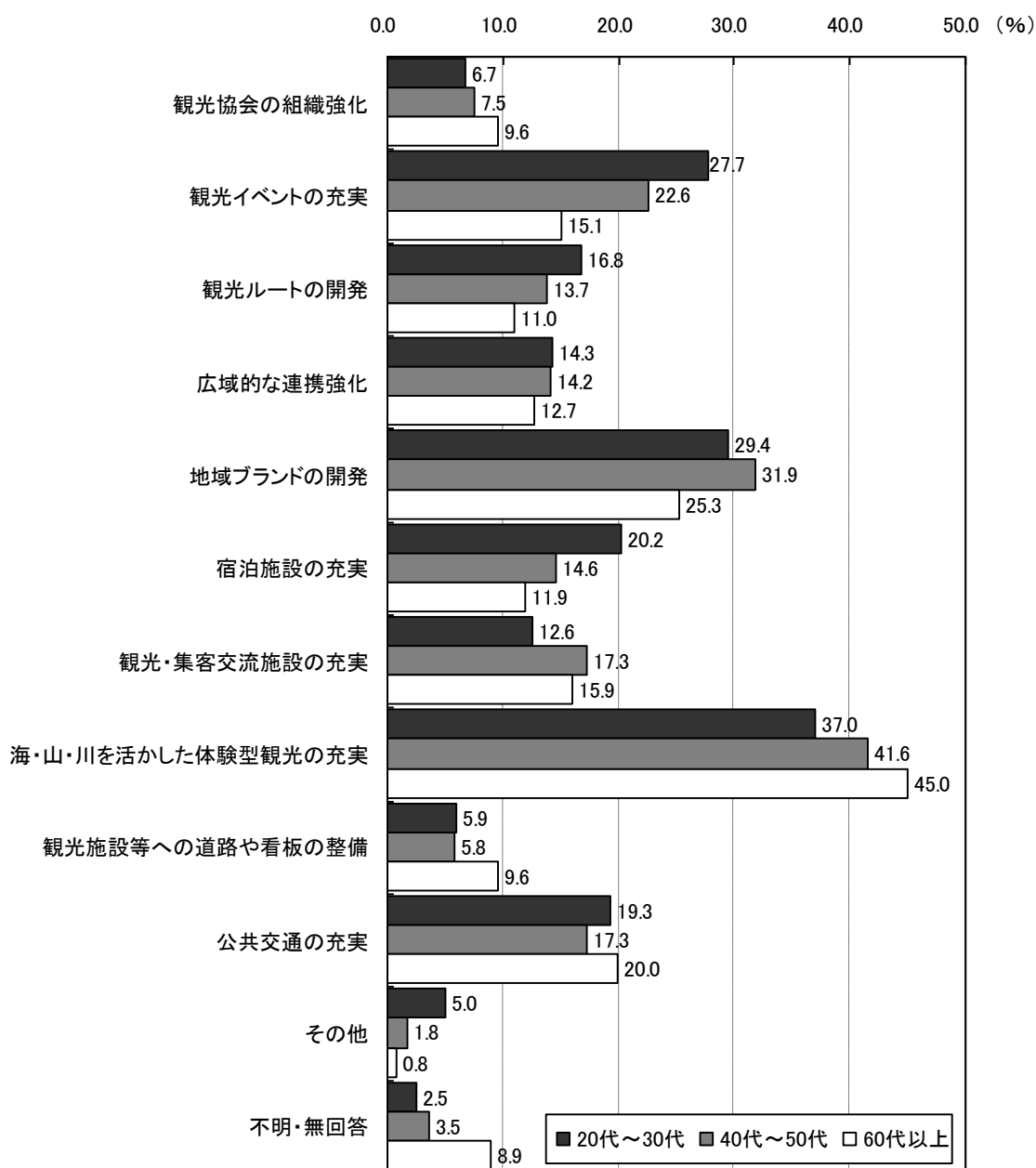
問9. 観光振興のため、どのような施策が必要だとお考えですか。(複数回答)

観光振興のために必要な施策は、「海・山・川を活かした体験型観光の充実」が42.8%と最も高く、次いで「地域ブランドの開発」が27.7%、「公共交通の充実」が19.1%、「観光イベントの充実」が18.7%となっています。施設やインフラの整備よりも地域資源を活かしたソフト面の施策が求められていることがうかがえます。



問9×年代別

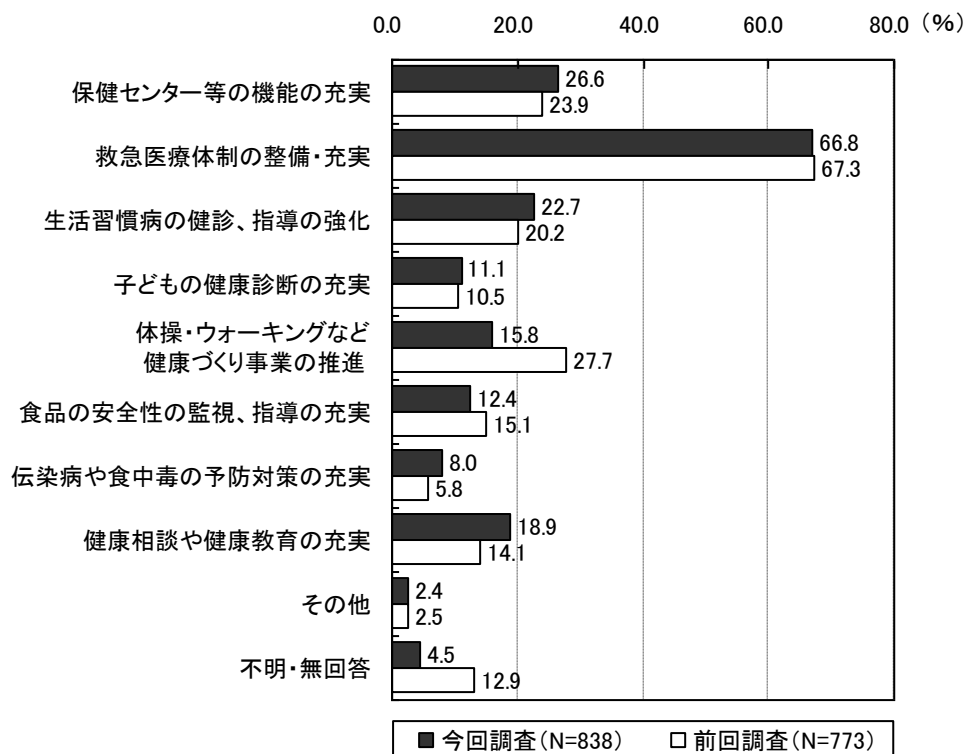
観光振興のために必要な施策を年代別で見ると、すべての年代で「海・山・川を活かした体験型観光の充実」が最も高く、その割合は高齢になるほど高くなっています。60代以上では「公共交通の充実」が比較的高く、また、「観光イベントの充実」「観光ルートの開発」「宿泊施設の充実」では若い世代ほど高い傾向が見られ、観光のイメージについては、年代ごとに傾向の違いが見られます。



	1位	2位	3位
全体	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (42.8%)	地域ブランドの開発 (27.7%)	公共交通の充実 (19.1%)
20代～30代	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (37.0%)	地域ブランドの開発 (29.4%)	観光イベントの充実 (27.7%)
40代～50代	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (41.6%)	地域ブランドの開発 (31.9%)	観光イベントの充実 (22.6%)
60代以上	海・山・川を活かした体験型観光の充実 (45.0%)	地域ブランドの開発 (25.3%)	公共交通の充実 (20.0%)

問 10. 保健・医療の分野でどのような施策が必要だとお考えですか。(複数回答)

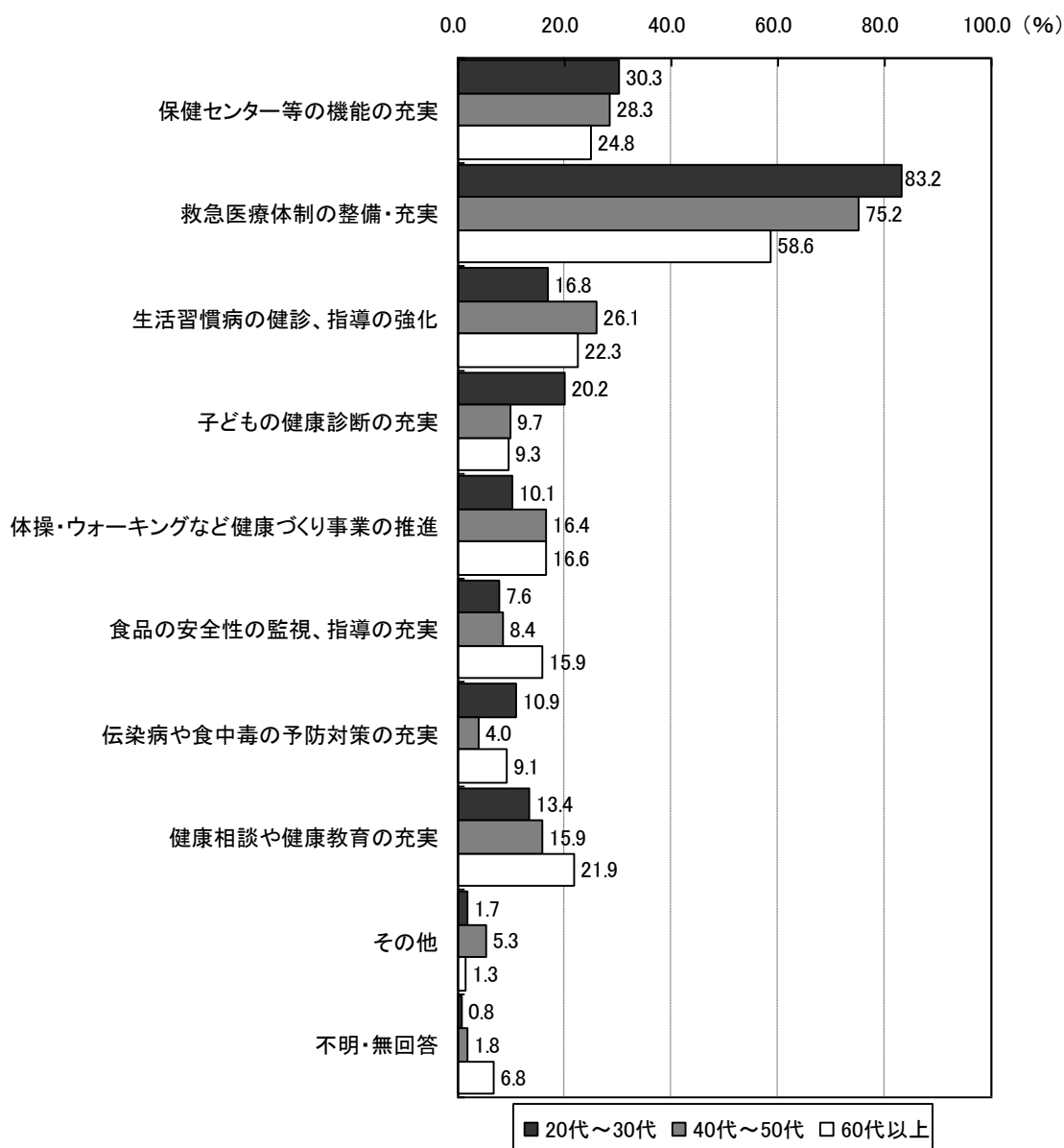
保健・医療の分野で必要な施策は、「救急医療体制の整備・充実」が 66.8%と群を抜いて高くなっており、次いで「保健センター等の機能の充実」が 26.6%、「生活習慣病の健診、指導の強化」が 22.7%となっています。体制や機能面の充実と健診・指導、健康相談や健康教育などの施策面の充実の両面が求められています。前回調査と比較すると、「救急医療体制の整備・充実」「保健センター等の機能の充実」が今回調査でも上位となっていますが、前回調査では「体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進」が 2 位だったのに対し、今回調査では「生活習慣病の健診、指導の強化」が 3 位となっています。「体操・ウォーキングなど健康づくり事業の推進」の割合が低くなったものの、「健康相談や健康教育の充実」の割合が高くなっています。



	1 位	2 位	3 位
今回調査	救急医療体制の整備・充実 (66.8%)	保健センター等の機能の 充実 (26.6%)	生活習慣病の健診、指導の 強化 (22.7%)
前回調査	救急医療体制の整備・充実 (67.3%)	体操・ウォーキングなど健 康づくり事業の推進 (27.7%)	保健センター等の機能の 充実 (23.9%)

問 10×年代別

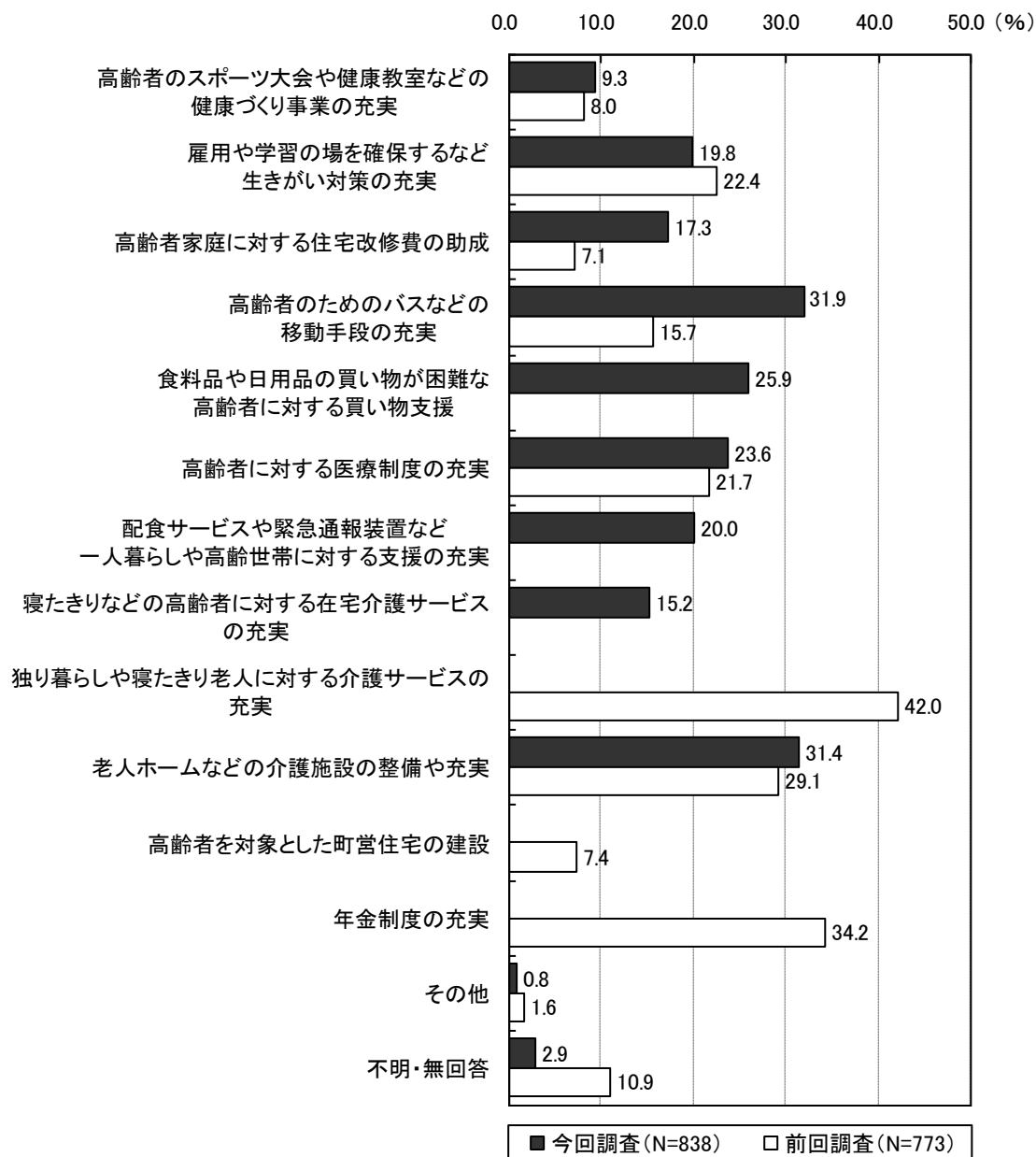
保健・医療の分野で必要な施策を年代別で見ると、すべての年代で「救急医療体制の整備・充実」が最も高く、次いで「保健センター等の機能の充実」となっており、その割合は若い世代ほど高くなっています。20～30代では「子どもの健康診断の充実」などを含め、子育てを背景としたニーズが、60代以上では「健康相談や健康教育の充実」など、健康づくりや介護予防につながる施策の割合が高くなっています。



	1位	2位	3位
全体	救急医療体制の整備・充実 (66.8%)	保健センター等の機能の充実 (26.6%)	生活習慣病の健診、指導の強化 (22.7%)
20代～30代	救急医療体制の整備・充実 (83.2%)	保健センター等の機能の充実 (30.3%)	子どもの健康診断の充実 (20.2%)
40代～50代	救急医療体制の整備・充実 (75.2%)	保健センター等の機能の充実 (28.3%)	生活習慣病の健診、指導の強化 (26.1%)
60代以上	救急医療体制の整備・充実 (58.6%)	保健センター等の機能の充実 (24.8%)	生活習慣病の健診、指導の強化 (22.3%)

問 11. 高齢者福祉対策として、今後どのような施策が必要だとお考えですか。(複数回答)

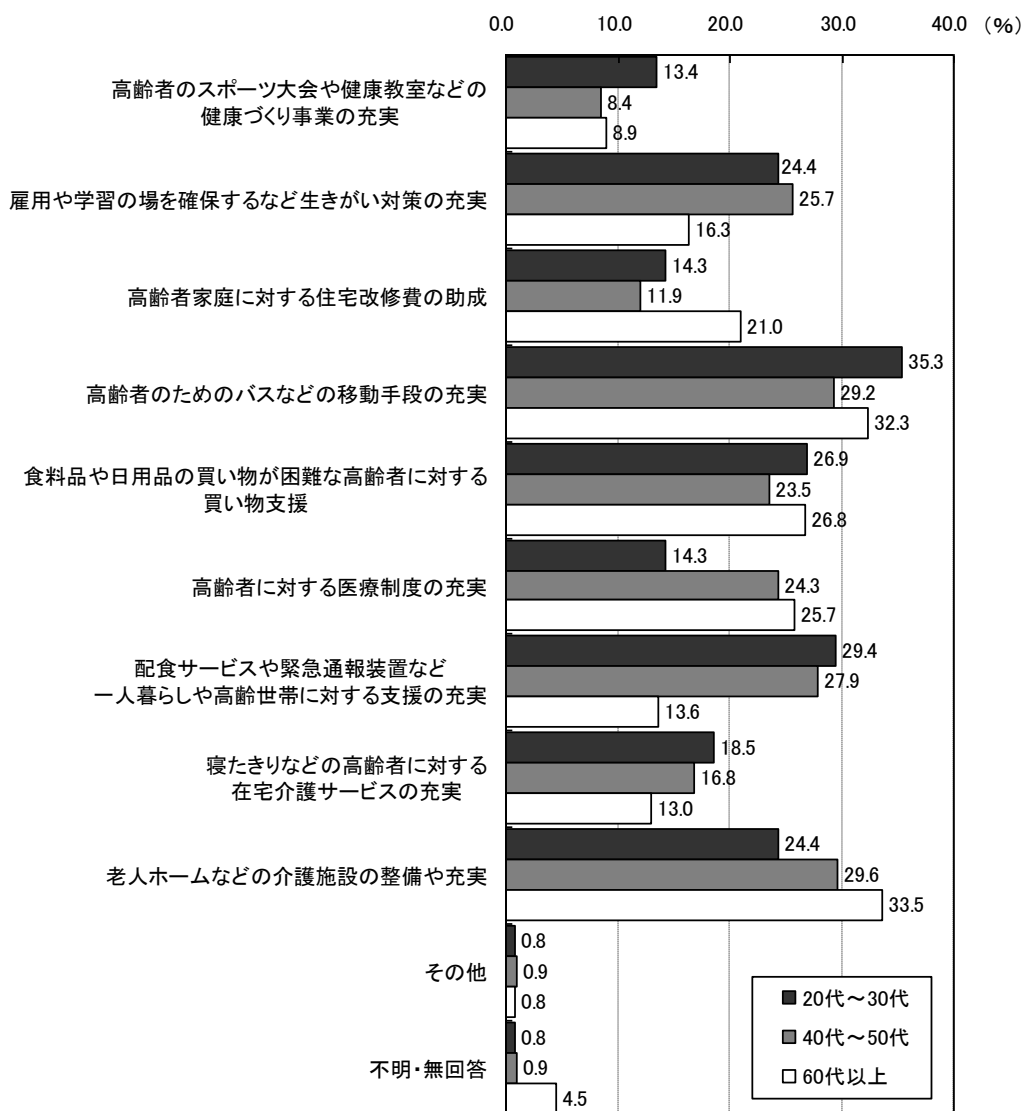
高齢者福祉の対策に必要な施策は、「高齢者のためのバスなどの移動手段の充実」が 31.9%、「老人ホームなどの介護施設の整備や充実」が 31.4%、「食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援」が 25.9%、「高齢者に対する医療制度の充実」が 23.6%となっています。移動手段や買い物支援などの生活支援、介護施設の整備へのニーズが高いことがうかがえます。前回調査と比較すると、「高齢者のためのバスなどの移動手段の充実」「食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援」「老人ホームなどの介護施設の整備や充実」など、今回調査では、高齢者が日常生活を送るための身近な支援を望む意見や施設の充実が上位となっています。



	1位	2位	3位
今回調査	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (31.9%)	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (31.4%)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (25.9%)
前回調査	独り暮らしや寝たきり老人に対する介護サービスの充実 (42.0%)	年金制度の充実 (34.2%)	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (29.1%)

問 11×年代別

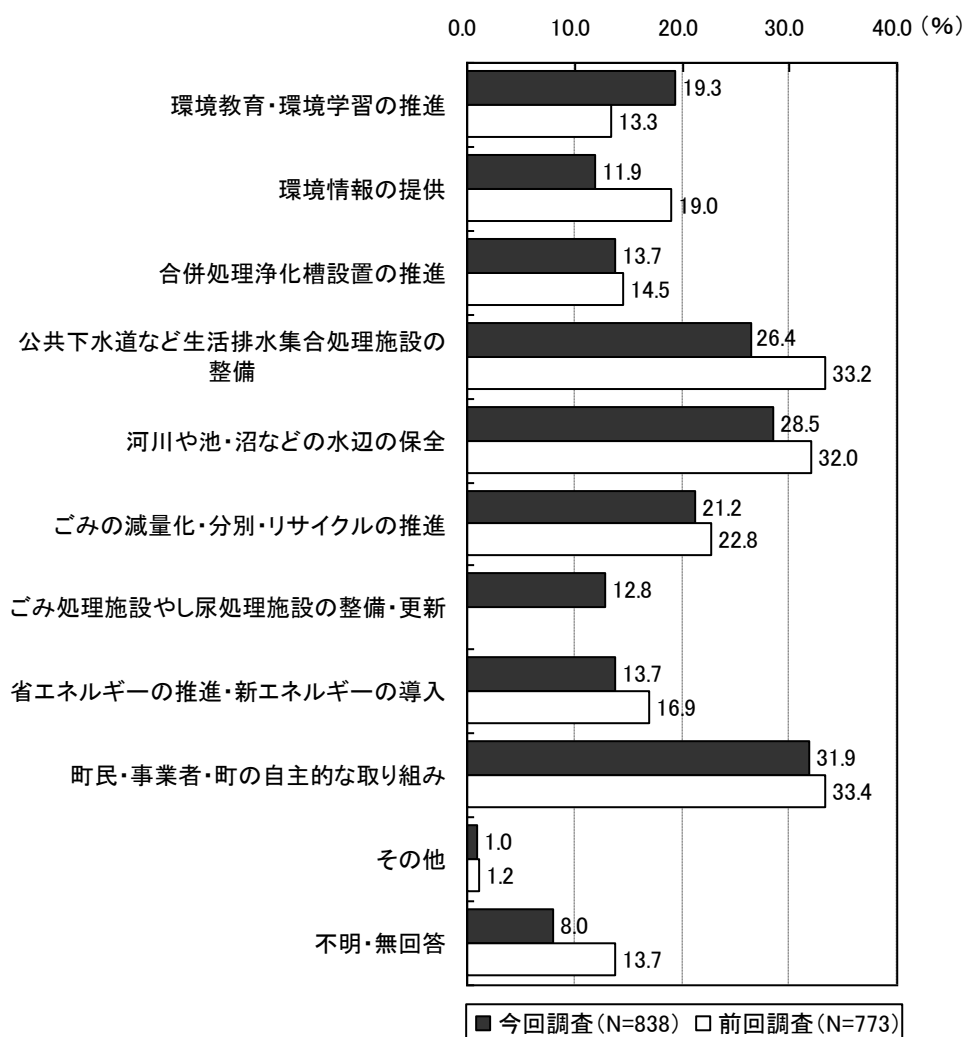
高齢者福祉の対策に必要な施策を年代別で見ると、20～30代では「高齢者のためのバスなどの移動手段の充実」や「配食サービスや緊急通報装置など一人暮らしや高齢世帯に対する支援の充実」などの生活支援の割合が高く、高齢になるほど「老人ホームなどの介護施設の整備や充実」の割合が高くなっています。求めている高齢期の生活支援について、年代別に傾向の違いが見られます。



	1位	2位	3位
全体	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (31.9%)	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (31.4%)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (25.9%)
20代～30代	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (35.3%)	配食サービスや緊急通報装置など一人暮らしや高齢世帯に対する支援の充実 (29.4%)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (26.9%)
40代～50代	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (29.6%)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (29.2%)	配食サービスや緊急通報装置など一人暮らしや高齢世帯に対する支援の充実 (27.9%)
60代以上	老人ホームなどの介護施設の整備や充実 (33.5%)	高齢者のためのバスなどの移動手段の充実 (32.3%)	食料品や日用品の買い物が困難な高齢者に対する買い物支援 (26.8%)

問 12. 紀北町の環境を良くするために、どのような施策が必要だとお考えですか。(複数回答)

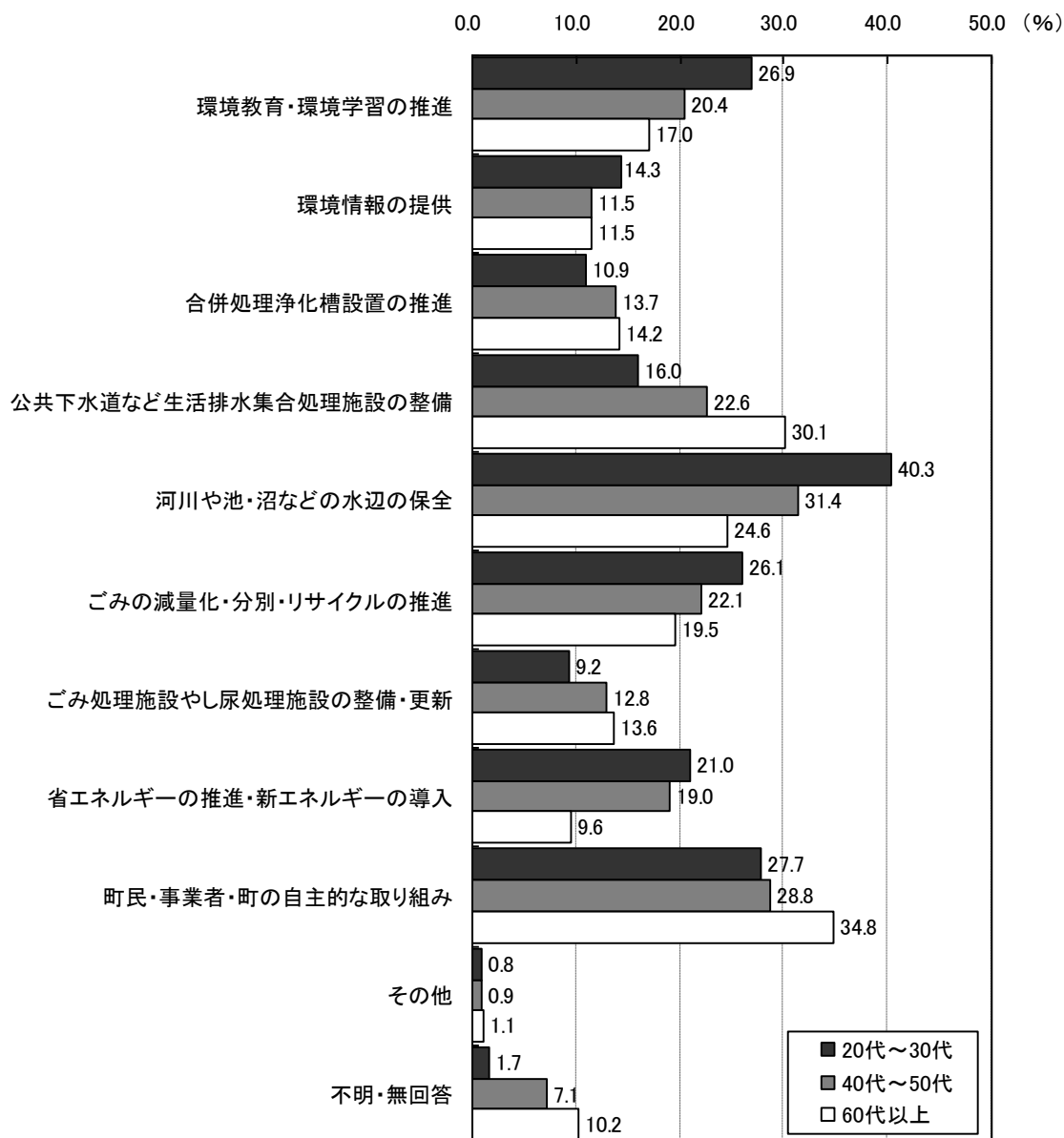
環境を良くするために必要な施策は、「町民・事業者・町の自主的な取り組み」が31.9%と最も高く、次いで「河川や池・沼などの水辺の保全」が28.5%、「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」が26.4%、「ごみの減量化・分別・リサイクルの推進」が21.2%となっています。環境を良くするためには、仕組みや設備と合わせ、町民・事業者・町のそれぞれが主体的に取り組むことが必要であるとの認識がうかがえます。前回調査と比較すると、順位に変動があるものの「町民・事業者・町の自主的な取り組み」「河川や池・沼などの水辺の保全」「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」が上位となっています。「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」「河川や池・沼などの水辺の保全」などでは、割合が低くなっているものの、「環境教育・環境学習の推進」では高くなっています。



	1位	2位	3位
今回調査	町民・事業者・町の自主的な取り組み (31.9%)	河川や池・沼などの水辺の保全 (28.5%)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (26.4%)
前回調査	町民・事業者・町の自主的な取り組み (33.4%)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (33.2%)	河川や池・沼などの水辺の保全 (32.0%)

問 12×年代別

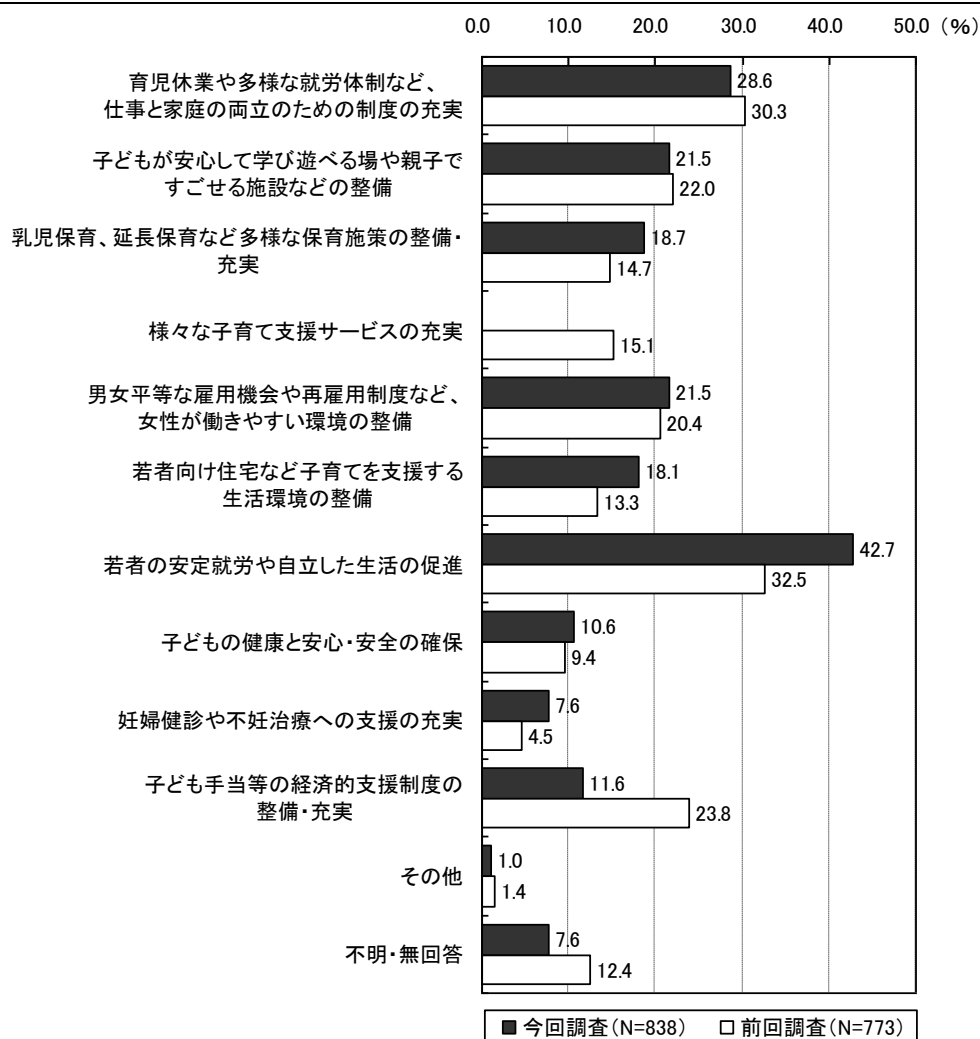
環境を良くするために必要な施策を年代別で見ると、20～30代、40～50代では「河川や池・沼などの水辺の保全」が、60代以上では「町民・事業者・町の自主的な取り組み」が最も高くなっています。若い年代ほど、「河川や池・沼などの水辺の保全」「環境教育・環境学習の推進」「ごみの減量化・分別・リサイクルの推進」「省エネルギーの推進・新エネルギーの導入」などの割合が高くなっており、「公共下水道など生活排水集合処理施設の整備」「ごみ処理施設やし尿処理施設の整備・更新」などでは、高齢になるほど割合が高くなっています。若い年代ではソフト面の取り組みが、高齢になるほどハード面の取り組みが求められている傾向がうかがえます。



	1位	2位	3位
全体	町民・事業者・町の自主的な取り組み (31.9%)	河川や池・沼などの水辺の保全 (28.5%)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (26.4%)
20代～30代	河川や池・沼などの水辺の保全 (40.3%)	町民・事業者・町の自主的な取り組み (27.7%)	環境教育・環境学習の推進 (26.9%)
40代～50代	河川や池・沼などの水辺の保全 (31.4%)	町民・事業者・町の自主的な取り組み (28.8%)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (22.6%)
60代以上	町民・事業者・町の自主的な取り組み (34.8%)	公共下水道など生活排水集合処理施設の整備 (30.1%)	河川や池・沼などの水辺の保全 (24.6%)

問 13. 少子化対策として、今後どのような施策が必要だとお考えですか。(複数回答)

少子化対策に必要な施策は、「若者の安定就労や自立した生活の促進」が 42.7%と最も高く、次いで「育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実」が 28.6%、「子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備」「男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備」が 21.5%となっています。社会経済状況等を反映して、就労に関する項目が上位となっています。前回調査と比較すると、「若者の安定就労や自立した生活の促進」「育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実」が上位となっており、前回調査では「(子ども手当等の) 経済的支援制度の充実・整備」が、今回調査では「男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備」が3位となっています。「子ども手当等の経済的支援制度の整備・充実」の割合が低くなっているものの、「若者の安定就労や自立した生活の促進」では高くなっています。

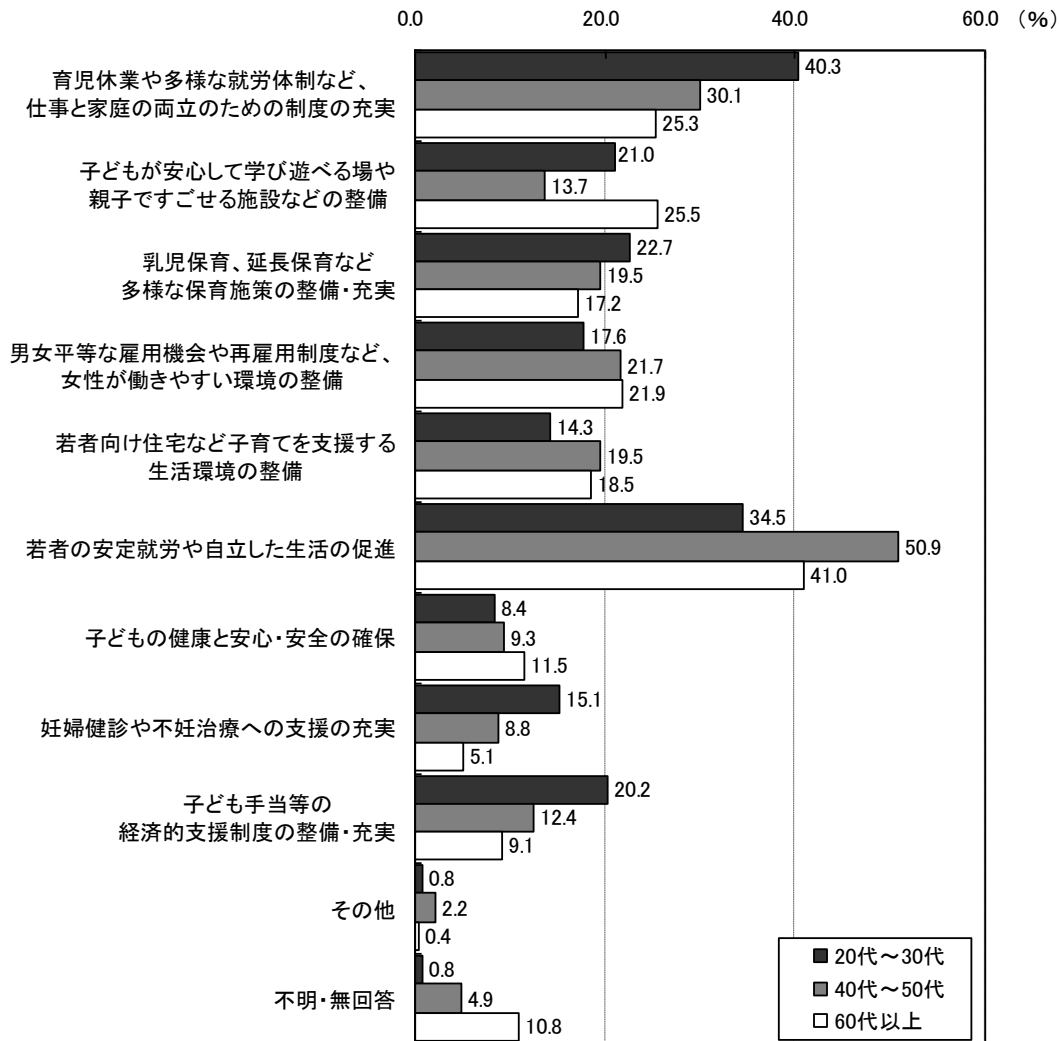


	1位	2位	3位
今回調査	若者の安定就労や自立した生活の促進 (42.7%)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (28.6%)	子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備 (21.5%) 男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備 (21.5%)
前回調査	若者の安定就労や自立した生活の促進 (32.5%)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (30.3%)	(子ども手当等の) 経済的支援制度の整備・充実 (23.8%)

※今回調査の3位は同率で2項目が該当します。

問 13×年代別

少子化対策に必要な施策を年代別で見ると、20～30代では「育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実」が、40～50代、60代以上では「若者の安定就労や自立した生活の促進」が最も高くなっています。若い世代ほど子育てに関する施策の割合が高く、40～50代では今後子どもが就職する世代であることから、「若者の安定就労や自立した生活の促進」の割合が他の年代に比べて高くなっています。一方で60代以上では「子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備」「子どもの健康と安心・安全の確保」が他の年代より高く、子どもの健やかな成長を望む傾向がうかがえます。

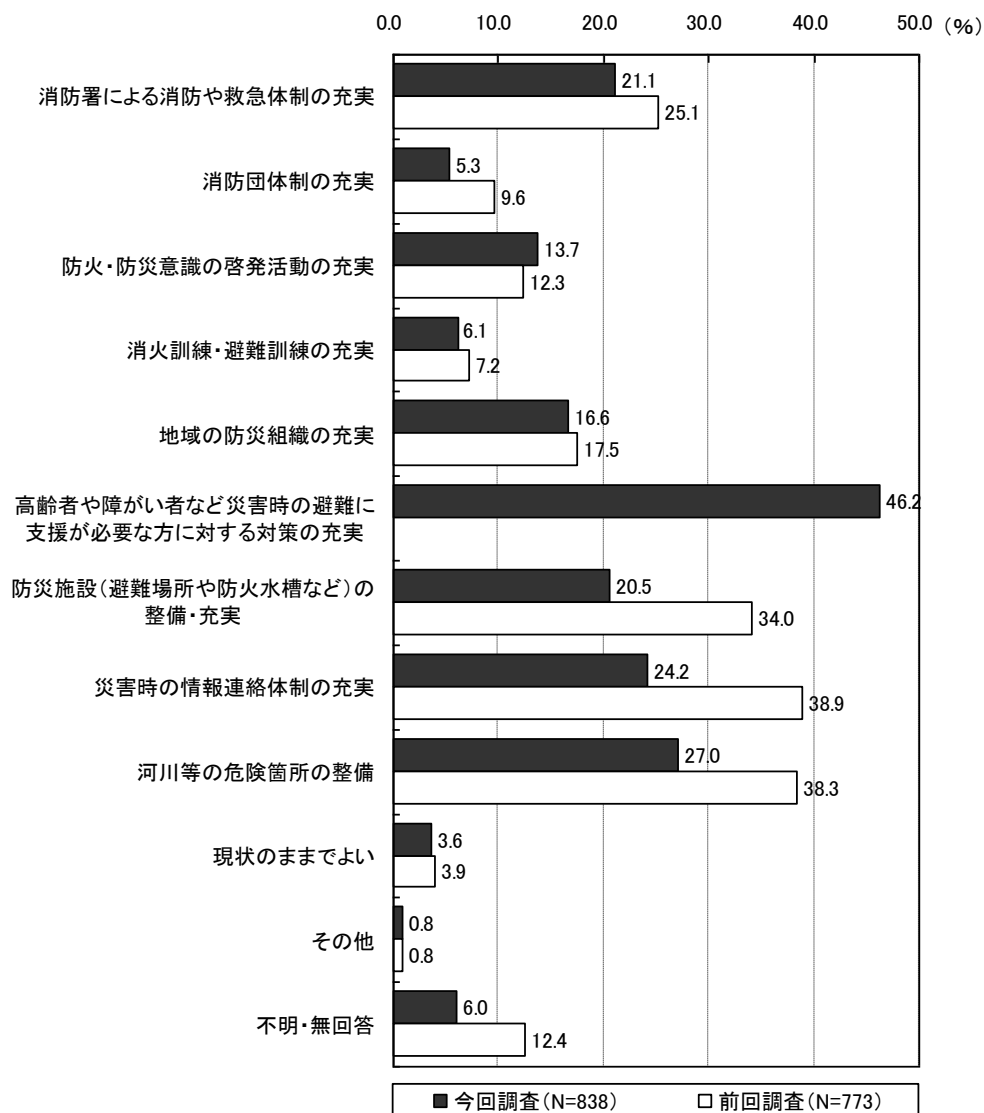


	1位	2位	3位
全体	若者の安定就労や自立した生活の促進 (42.7%)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (28.6%)	子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備 (21.5%) 男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備 (21.5%)
20代～30代	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (40.3%)	若者の安定就労や自立した生活の促進 (34.5%)	乳児保育、延長保育など多様な保育土作の整備・充実 (22.7%)
40代～50代	若者の安定就労や自立した生活の促進 (50.9%)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (30.1%)	男女平等な雇用機会や再雇用制度など、女性が働きやすい環境の整備 (21.7%)
60代以上	若者の安定就労や自立した生活の促進 (41.0%)	子どもが安心して学び遊べる場や親子ですごせる施設などの整備 (25.5%)	育児休業や多様な就労体制など、仕事と家庭の両立のための制度の充実 (25.3%)

※全体の3位は同率で2項目が該当します。

問 14. あなたは、まちの消防・防災体制について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

まちの消防・防災体制で力を入れるべきことは、「高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実」が46.2%と最も高く、次いで「河川等の危険箇所の整備」が27.0%、「災害時の情報連絡体制の充実」が24.2%となっています。「現状のままでよい」が3.6%にとどまっております。災害に対する危機意識が高く、特に災害時要援護者の対策や情報連絡体制など、地域のつながりによる防災対策が求められています。前回調査と比較すると、前回調査では選択肢がなかった「高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実」が群を抜いて高くなっており、災害時要援護者への支援についての関心の高さがうかがえます。

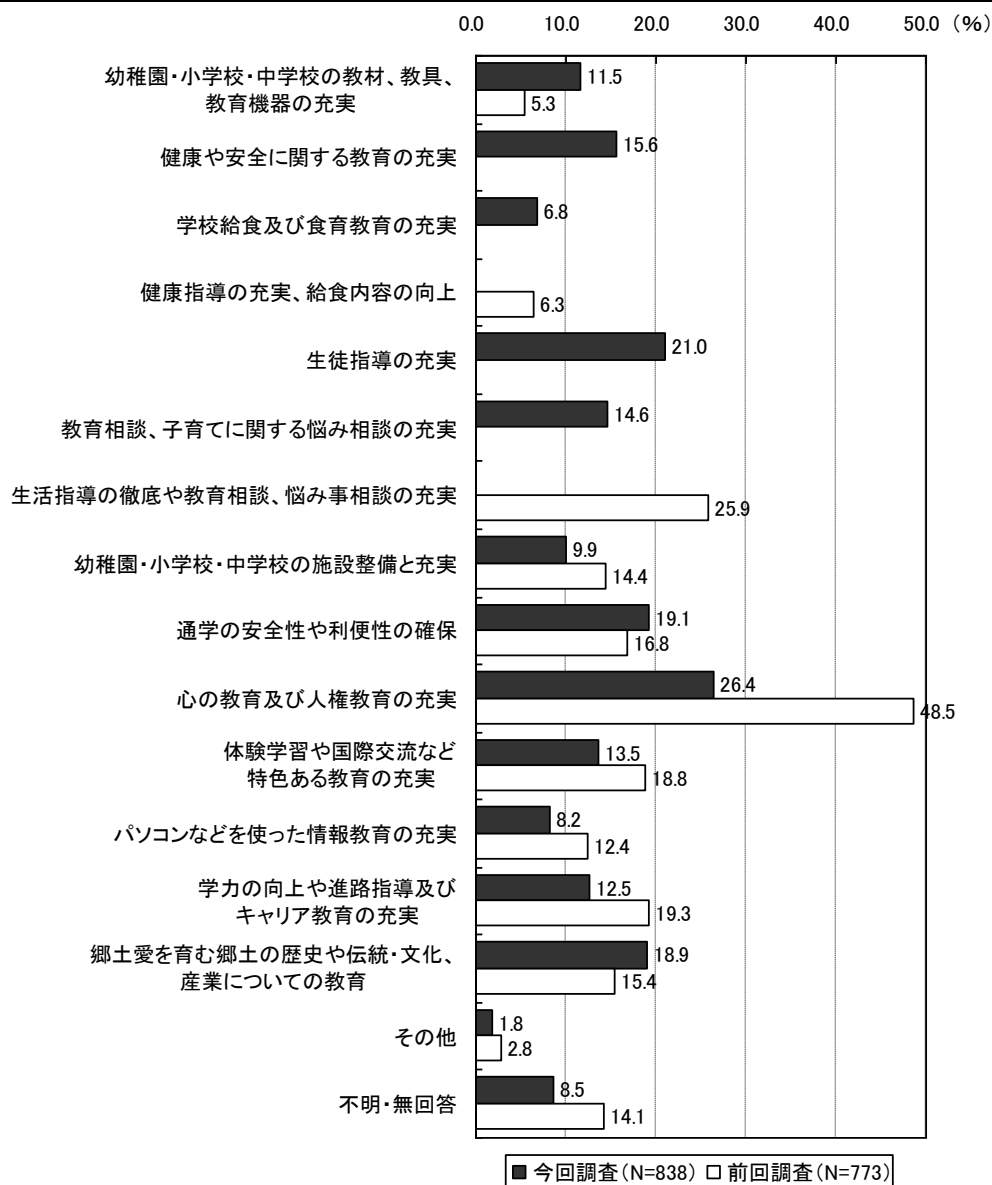


	1位	2位	3位
今回調査	高齢者や障がい者など災害時の避難に支援が必要な方に対する対策の充実 (46.2%)	河川等の危険箇所の整備 (27.0%)	災害時の情報連絡体制の充実 (24.2%)
前回調査	災害時の情報連絡体制の充実 (38.9%)	河川等の危険箇所の整備 (38.3%)	防災施設(避難場所や防火水槽など)の整備・充実 (34.0%)

問 15. 子どもの健全育成について、あなたが特に力を入れてほしいことはどれですか。

(複数回答)

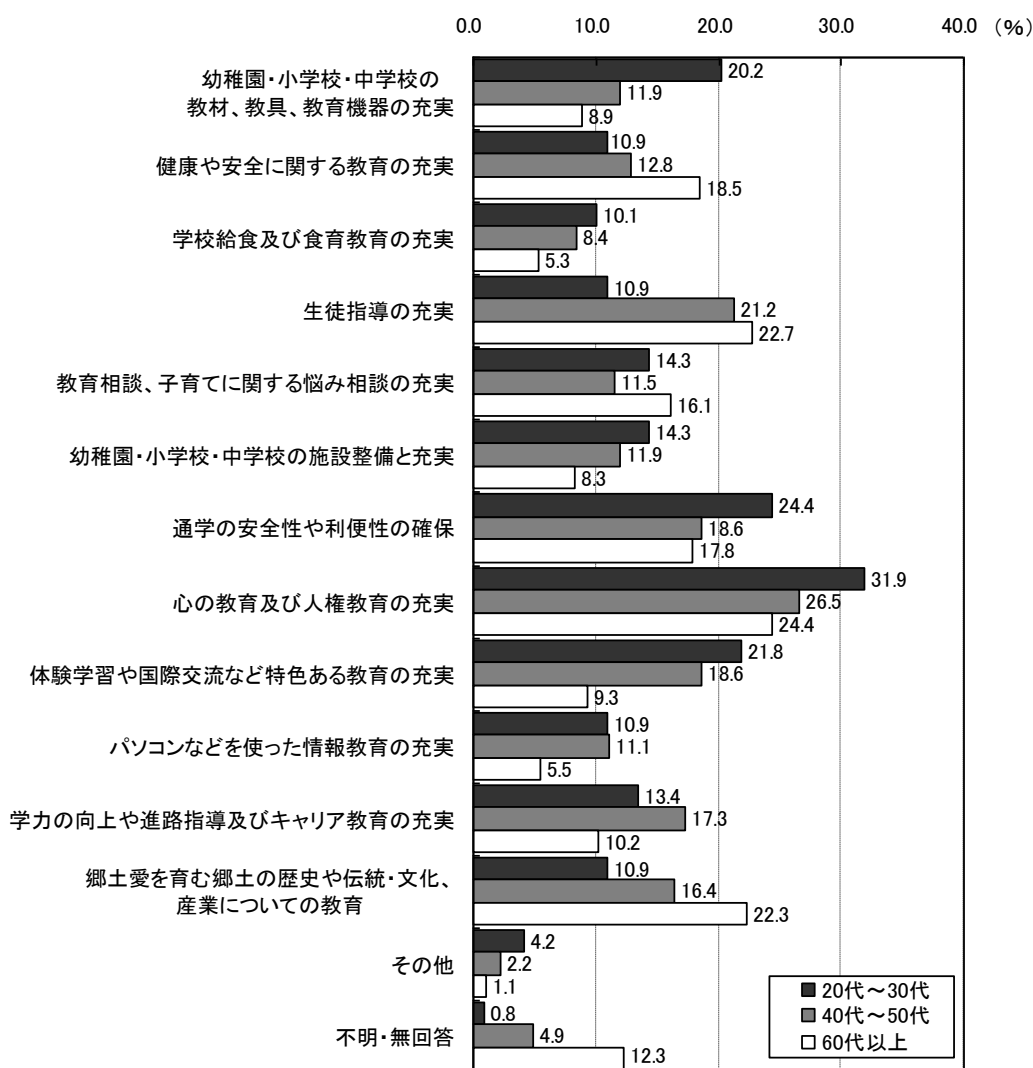
子どもの健全育成について特に力を入れてほしいことは、「心の教育及び人権教育の充実」が 26.4%と最も高く、次いで「生徒指導の充実」が 21.0%、「通学の安全性や利便性の確保」が 19.1%、「郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育」が 18.9%、「健康や安全に関する教育の充実」が 15.6%となっています。各項目への回答のばらつきがあり、健全育成のために必要な項目が多岐にわたっており、特に子どもの心身の健康や安全、郷土愛に関する教育が求められている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「心の教育及び人権教育の充実」1位となっていますが、今回調査では「学力向上や進路指導及びキャリア教育の充実」が上位3位からなくなっており、学力よりも人間性を育てる教育が求められている傾向が強まっていることがうかがえます。



	1位	2位	3位
今回調査	心の教育及び人権教育の充実 (26.4%)	生活指導の充実 (21.0%)	通学の安全性や利便性の確保 (19.1%)
前回調査	心の教育及び人権教育の充実 (48.5%)	生徒指導の徹底や教育相談、悩み事相談の充実 (25.9%)	学力の向上や進路指導及びキャリア教育の充実 (19.3%)

問 15×年代別

子どもの健全育成について特に力を入れてほしいことを年代別で見ると、すべての年代で「心の教育及び人権教育の充実」が最も高くなっています。次いで、20～30代では「通学の安全性や利便性の確保」、40～50代、60代以上では「生徒指導の充実」が高くなっています。若い世代ほど「心の教育及び人権教育の充実」「通学の安全性や利便性の確保」「体験学習や国際交流など特色ある教育の充実」「幼稚園・小学校・中学校の教材、教具、教育機器の充実」などの割合が高くなっており、教育の質の向上や幅広さが求められている傾向がうかがえます。一方、高齢になるほど「郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育」「生徒指導の充実」「健康や安全に関する教育の充実」の割合が高くなっており、郷土愛や心身の健康を重んじている傾向がうかがえます。

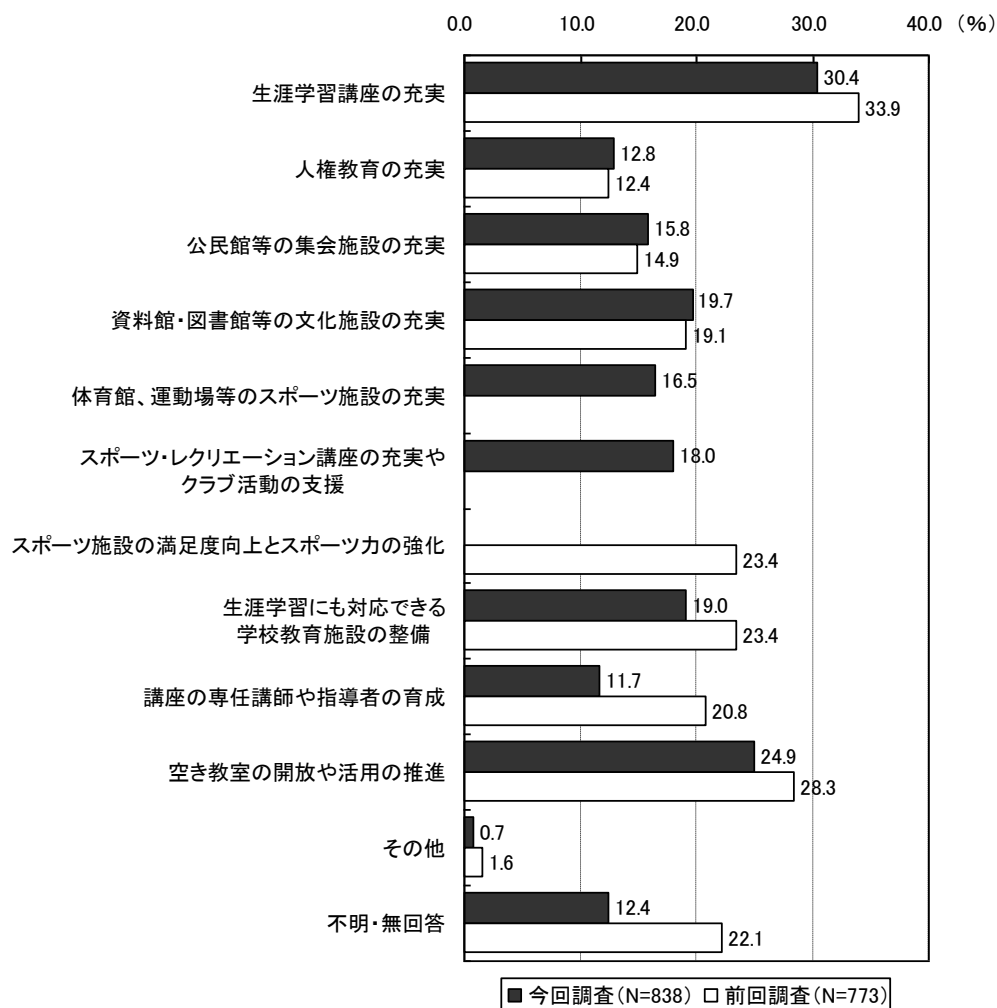


	1位	2位	3位
全体	心の教育及び人権教育の充実 (26.4%)	生徒指導の充実 (21.0%)	通学の安全性や利便性の確保 (19.1%)
20代～30代	心の教育及び人権教育の充実 (31.9%)	通学の安全性や利便性の確保 (24.4%)	体験学習や国際交流など特色ある教育の充実 (21.8%)
40代～50代	心の教育及び人権教育の充実 (26.5%)	生徒指導の充実 (21.2%)	通学の安全性や利便性の確保 (18.6%) 体験学習や国際交流など特色ある教育の充実 (18.6%)
60代以上	心の教育及び人権教育の充実 (24.4%)	生徒指導の充実 (22.7%)	郷土愛を育む郷土の歴史や伝統・文化、産業についての教育 (22.3%)

問 16. 全年代を通じた学習について、あなたが特に力を入れてほしいものはどれですか。

(複数回答)

全年代を通じた学習について特に力を入れてほしいものは、「生涯学習講座の充実」が 30.4%と最も高く、次いで「空き教室の開放や活用の推進」が 24.9%、「資料館・図書館等の文化施設の充実」が 19.7%となっています。年代に関わらず新たな知識や教養を身につけられる環境整備が求められている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「生涯学習講座の充実」「空き教室の開放や活用の推進」の上位2位となっていますが、今回調査では「資料館・図書館等の文化施設の充実」が3位となっています。

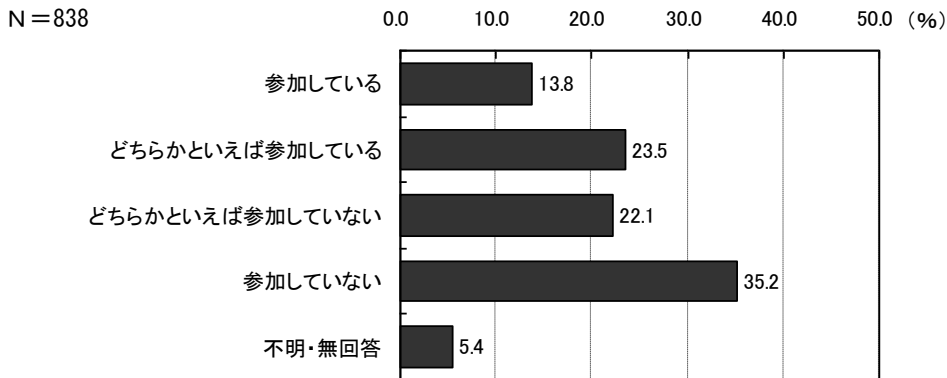


	1位	2位	3位
今回調査	生涯学習講座の充実 (30.4%)	空き教室の開放や活用の 推進 (24.9%)	資料館・図書館等の文化施 設の充実 (19.7%)
前回調査	生涯学習講座の充実 (33.9%)	空き教室の開放や活用の 推進 (28.3%)	スポーツ施設の満足度向 上とスポーツ力の強化 (23.4%) 生涯学習にも対応できる 学校教育施設の整備 (23.4%)

5. 住民参加について

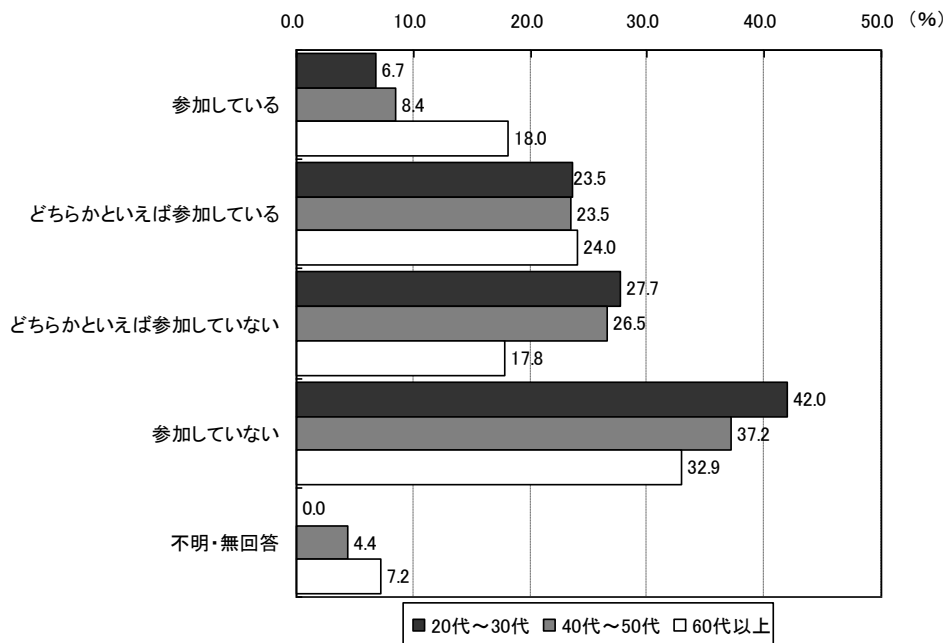
問 17. あなたは、地域の行事やボランティアなど住民主体の活動に参加されていますか。

地域の行事やボランティアなどの活動参加状況は、「参加していない」が35.2%、「どちらかといえば参加している」が23.5%となっています。『参加していない 合計（「参加していない」と「どちらかといえば参加していない」の合計）』が57.3%となっており、『参加している 合計（「参加している」と「どちらかといえば参加している」の合計）』の37.3%を上回っています。



問 17×年代別

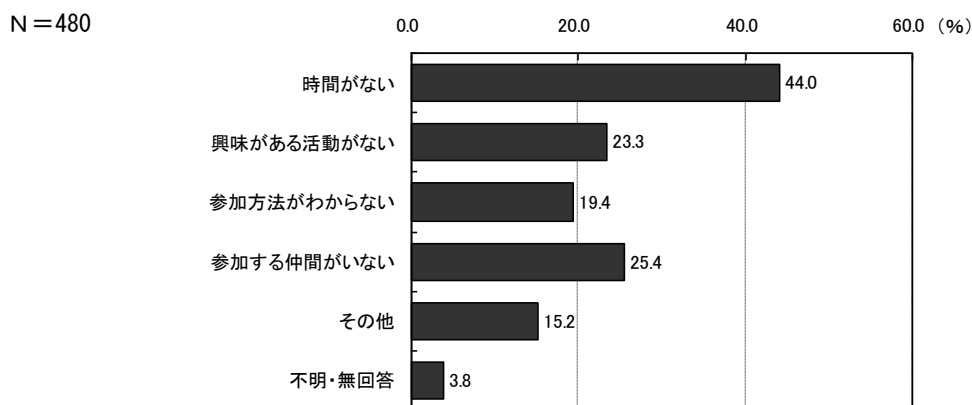
地域の行事やボランティアなどの活動参加状況を年代別で見ると、すべての年代で「参加していない」が最も高くなっていますが、60代以上では、『参加している 合計』が4割以上と、参加度が高くなっています。また、若い世代ほど『参加していない 合計』の割合が高く、参加度が低くなる傾向があります。



	『参加している 合計』	『参加していない 合計』
全 体	37.3%	57.3%
20代~30代	30.2%	69.7%
40代~50代	31.9%	63.7%
60代以上	42.0%	50.7%

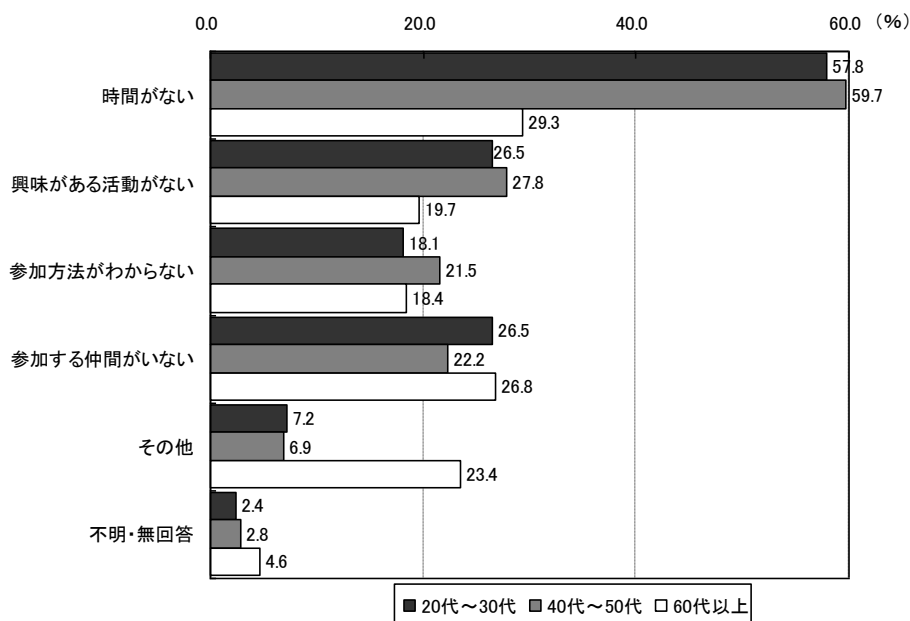
問 18.【問 17 で「3. どちらかといえば参加していない」「4. 参加していない」と回答された方におうかがいします。】「どちらかといえば参加していない」「参加していない」と回答された理由は何ですか。（複数回答）

地区の行事やボランティアなどの活動に参加していない理由は、「時間がない」が44.0%と最も高く、次いで「参加する仲間がない」が25.4%、「興味がある活動がない」が23.3%と、「時間がない」という個人の都合だけでなく、興味を持てる活動内容や仲間づくりなどが求められている傾向がうかがえます。



問 18×年代別

地区の行事やボランティアなどの活動に参加していない理由を年代別で見ると、すべての年代で「時間がない」が最も高くなっています。特に20～30代、40～50代で「時間がない」が6割弱と高く、仕事と活動の両立が難しい状況がうかがえます。また、60代以上では「参加する仲間がない」も3割弱と高く、仲間づくりを行うことで参加度が高まることを期待できます。

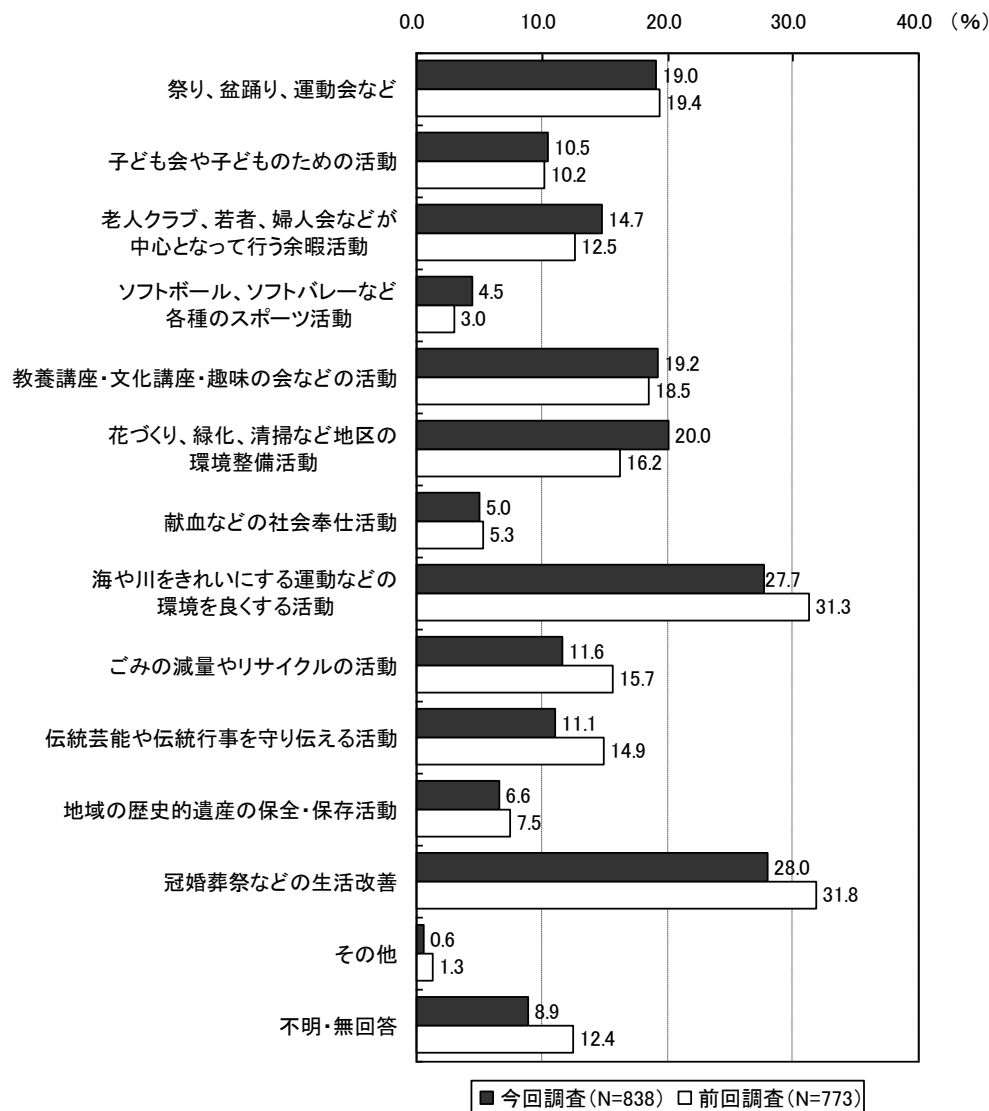


	1位	2位	3位
全体	時間がない (44.0%)	参加する仲間がない (25.4%)	興味がある活動がない (23.3%)
20代～30代	時間がない (57.8%)	興味がある活動がない (26.5%)	参加する仲間がない (26.5%)
40代～50代	時間がない (59.7%)	興味がある活動がない (27.8%)	参加する仲間がない (22.2%)
60代以上	時間がない (29.3%)	参加する仲間がない (26.8%)	その他 (23.4%)

※20代～30代の2位と3位は同率2位となっています。

問 19. あなたは、どのような活動を充実すべきだとお考えですか。(複数回答)

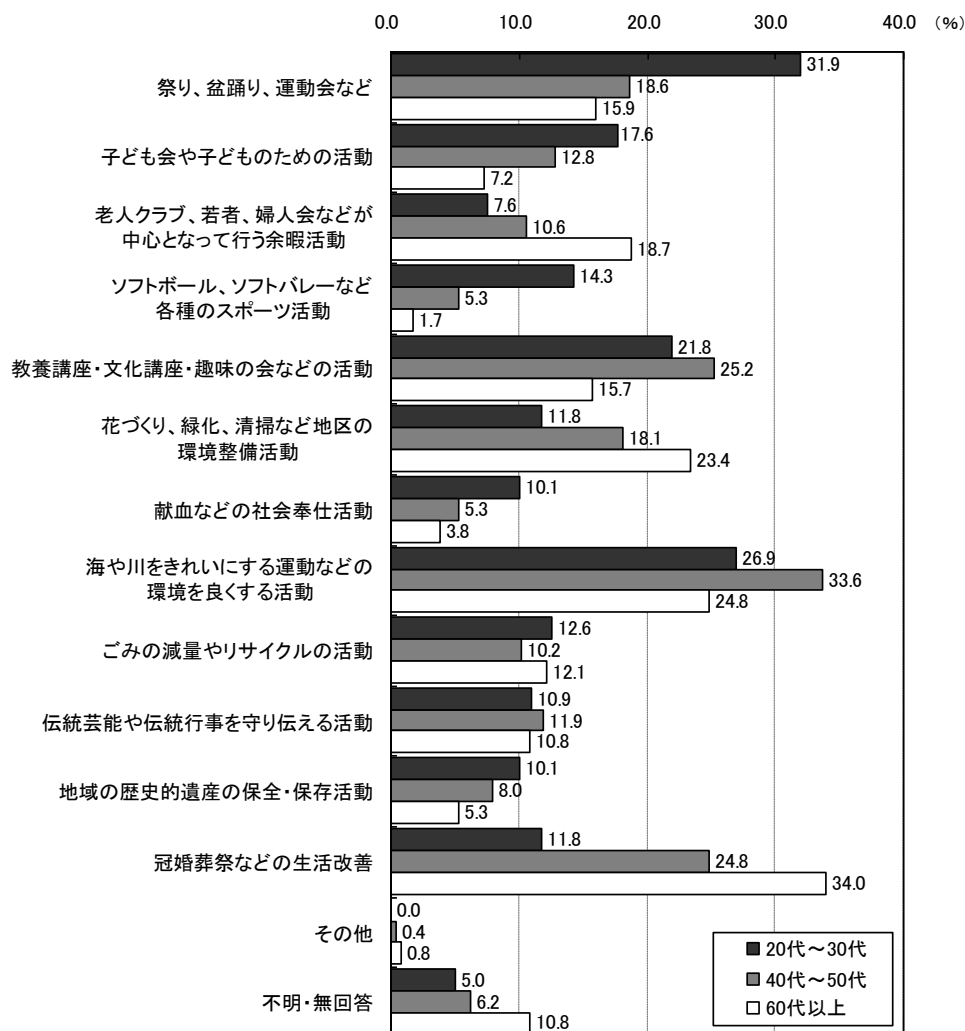
どのような活動を充実すべきかについては、「冠婚葬祭などの生活改善」が 28.0%と最も高く、次いで「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」が 27.7%、「花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動」が 20.0%、「教養講座・文化講座・趣味の会などの活動」が 19.2%、「祭り、盆踊り、運動会など」が 19.0%となっています。地域の慣習改善のほか、環境や教育・文化に関する活動が求められている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「冠婚葬祭などの生活改善」「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」が上位2位となっていますが、今回調査では「花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動」が3位となっており、生活環境を守る取り組みへの関心が高まっていることがうかがえます。



	1位	2位	3位
今回調査	冠婚葬祭などの生活改善 (28.0%)	海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動 (27.7%)	花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動 (20.0%)
前回調査	冠婚葬祭などの生活改善 (31.8%)	海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動 (31.3%)	祭り、盆踊り、運動会など (19.4%)

問 19×年代別

どのような活動を充実すべきかについて年代別で見ると、20～30代では「祭り、盆踊り、運動会など」が、40～50代では「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」が、60代以上では「冠婚葬祭などの生活改善」が最も高く、それぞれ違った傾向となっています。若い世代ほど「祭り、盆踊り、運動会など」「子ども会や子どものための活動」などの割合が高くなっています。高齢になるほど「冠婚葬祭などの生活改善」の割合が高く、地域の慣習等に対する課題意識が高いことがうかがえます。

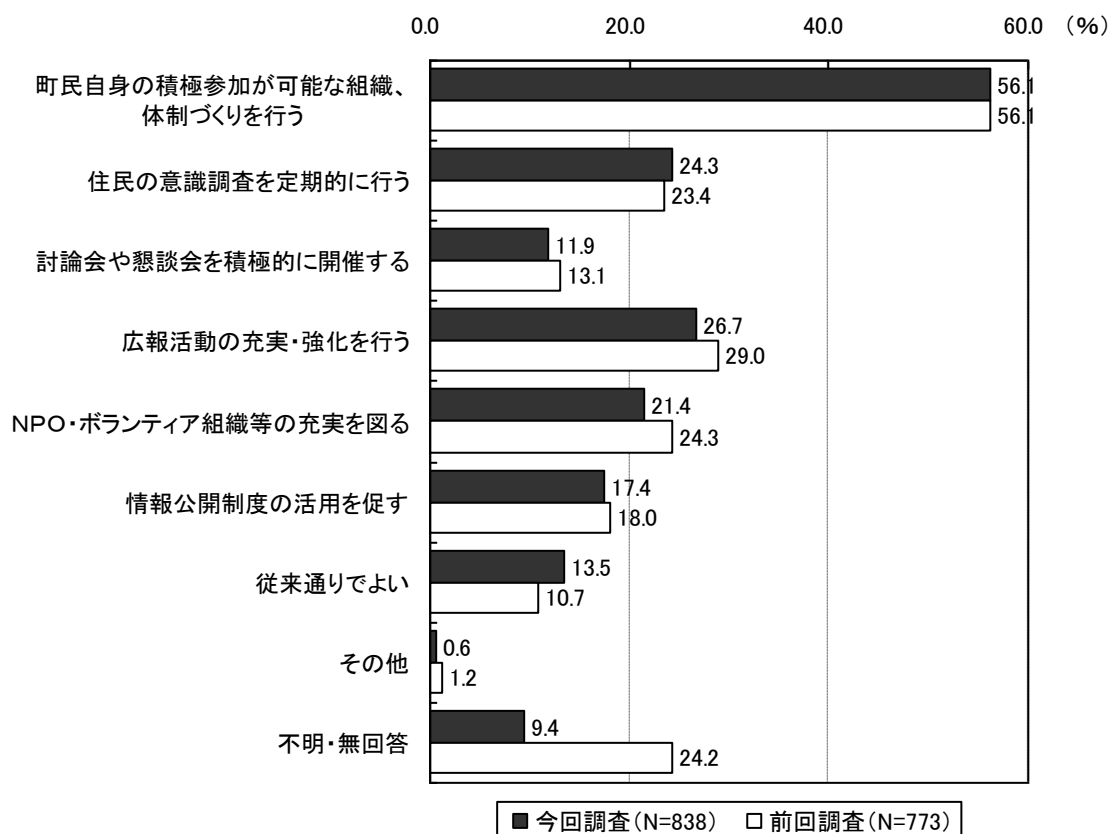


	1位	2位	3位
全体	冠婚葬祭などの生活改善 (28.0%)	海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動 (27.7%)	花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動 (20.0%)
20代～30代	祭り、盆踊り、運動会など (31.9%)	海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動 (26.9%)	教養講座・文化講座・趣味の会などの活動 (21.8%)
40代～50代	海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動 (33.6%)	教養講座・文化講座・趣味の会などの活動 (25.2%)	冠婚葬祭などの生活改善 (24.8%)
60代以上	冠婚葬祭などの生活改善 (34.0%)	海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動 (24.8%)	花づくり、緑化、清掃など地区の環境整備活動 (23.4%)

問 20. あなたは、まちづくりへの住民参加の方法としてどのようにすれば良いとお考えですか。

(複数回答)

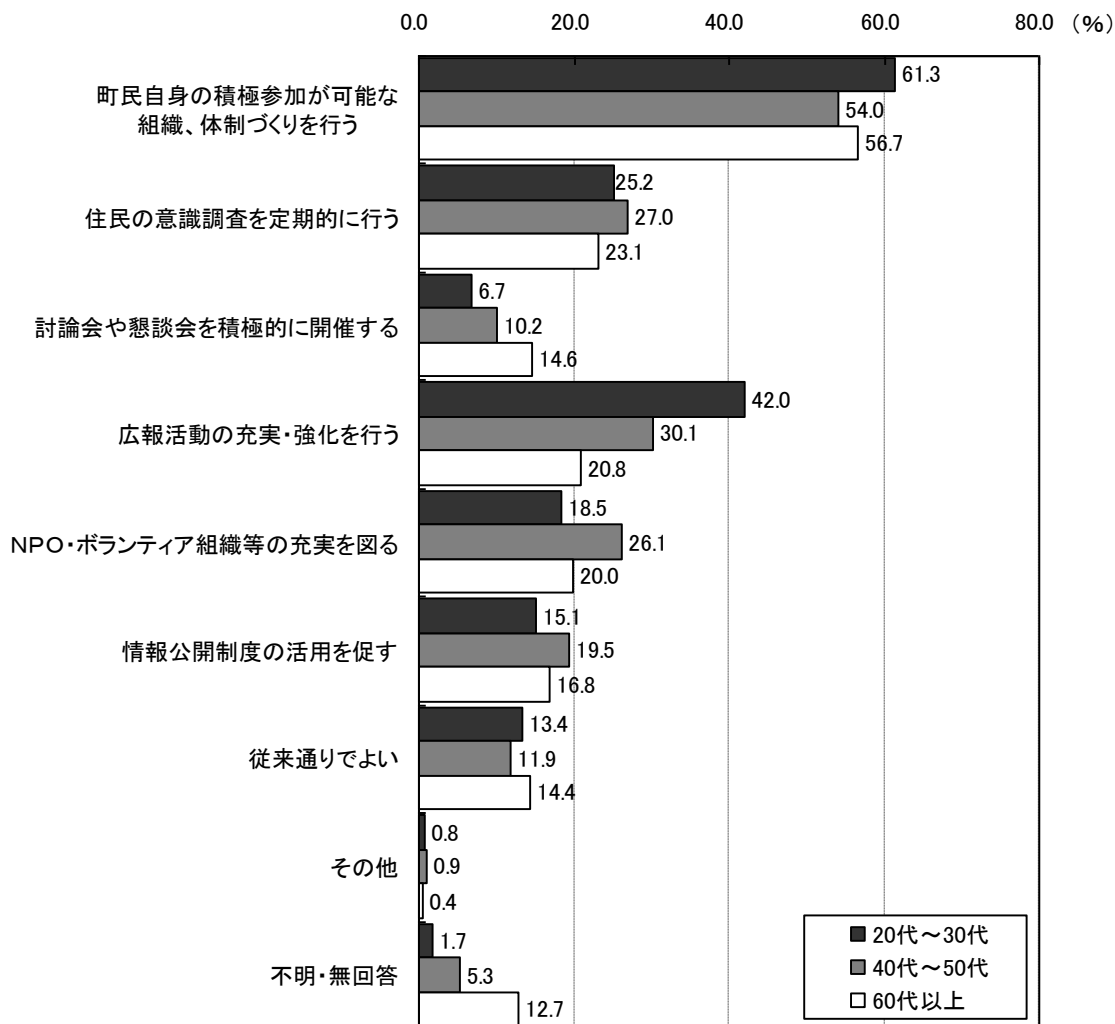
まちづくりへの住民参加の方法は、「町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う」が56.1%と最も高く、次いで「広報活動の充実・強化を行う」が26.7%、「住民の意識調査を定期的に行う」が24.3%となっています。町民自身の積極的な参加を促すためにも、情報提供やニーズ把握が求められている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、「町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う」「広報活動の充実・強化を行う」が上位2位となっていますが、今回調査では「住民の意識調査を定期的に行う」が3位となっており、町政の評価、町民ニーズの把握を行う手法として、アンケート調査が定着していることがうかがえます。



	1位	2位	3位
今回調査	町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う (56.1%)	広報活動の充実・強化を行う (26.7%)	住民の意識調査を定期的に行う (24.3%)
前回調査	町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う (56.1%)	広報活動の充実・強化を行う (29.0%)	NPO・ボランティア組織等の充実を図る (24.3%)

問 20×年代別

まちづくりへの住民参加の方法を年代別で見ると、すべての年代で「町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う」が最も高くなっています。若い世代ほど「広報活動の充実・強化を行う」の割合が高くなり、まずは周知・啓発や情報提供を重要とする傾向がうかがえます。また、高齢になるほど「討論会や懇談会を積極的に開催する」の割合が高くなることから、直接的な対話を求める傾向がうかがえます。

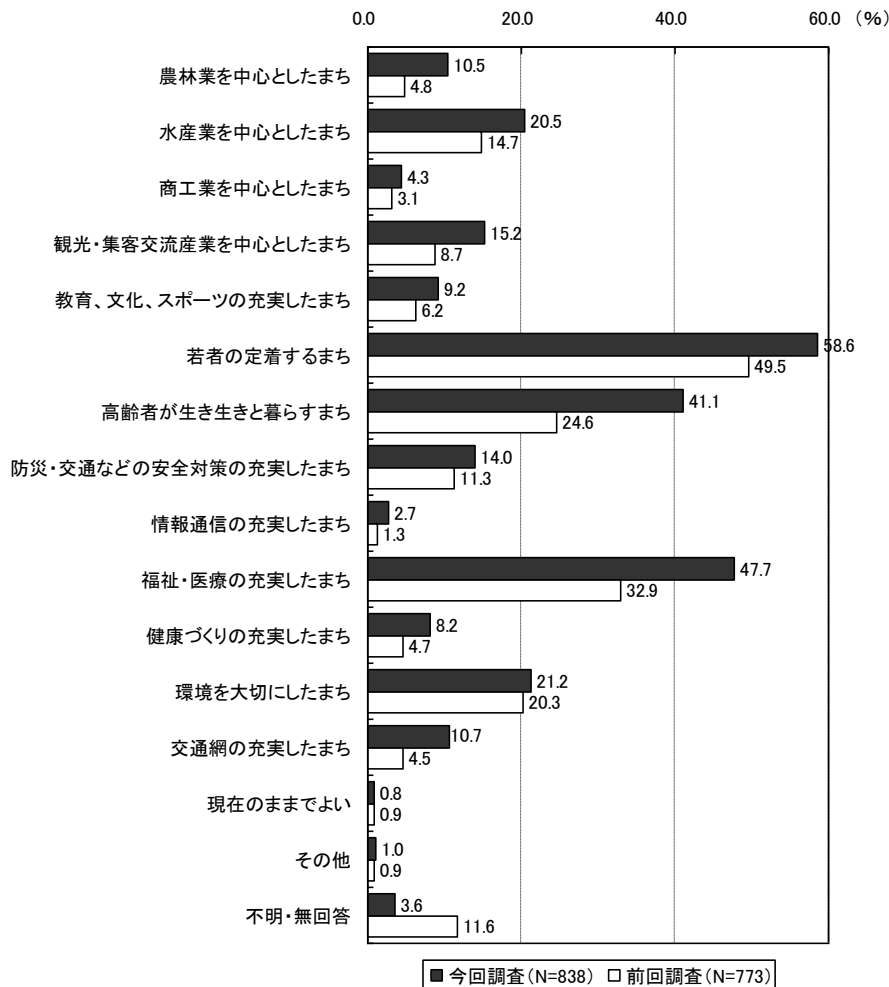


	1位	2位	3位
全体	町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う (56.1%)	広報活動の充実・強化を行う (26.7%)	住民の意識調査を定期的に行う (24.3%)
20代~30代	町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う (61.3%)	広報活動の充実・強化を行う (42.0%)	住民の意識調査を定期的に行う (25.2%)
40代~50代	町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う (54.0%)	広報活動の充実・強化を行う (30.1%)	住民の意識調査を定期的に行う (27.0%)
60代以上	町民自身の積極参加が可能な組織、体制づくりを行う (56.7%)	住民の意識調査を定期的に行う (23.1%)	広報活動の充実・強化を行う (20.8%)

6. 紀北町の将来像について

問 21. あなたは、紀北町が将来どのようなまちに発展してほしいと思いますか。(複数回答)

紀北町の将来像は、「若者の定着するまち」が 58.6%と最も高く、次いで「福祉・医療の充実したまち」が 47.7%、「高齢者が生き生きと暮らすまち」が 41.1%となっています。少子高齢化を背景として、若者の定住促進と、住民が安心・安全に生きがいを持って暮らせるまちづくりが求められている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、いずれの調査でも「若者の定着するまち」「福祉・医療の充実したまち」「高齢者が生き生きと暮らすまち」が上位となっています。

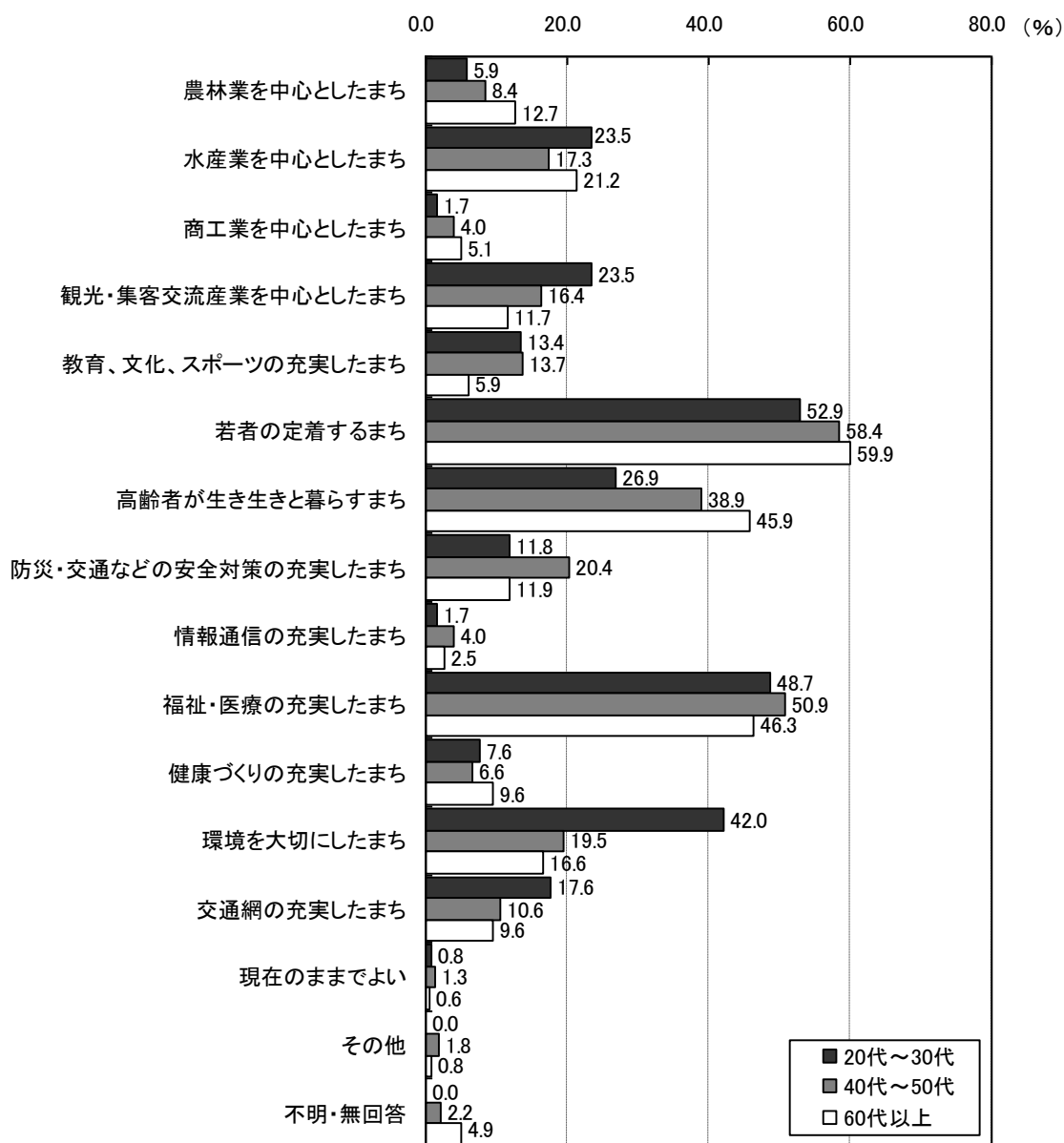


※この設問は、選択可能な選択肢の数が、前回調査の「2つまで」から今回調査では「3つまで」に変更しています。

	1位	2位	3位
今回調査	若者の定着するまち (58.6%)	福祉・医療の充実したまち (47.7%)	高齢者が生き生きと暮らすまち (41.1%)
前回調査	若者の定着するまち (49.5%)	福祉・医療の充実したまち (32.9%)	高齢者が生き生きと暮らすまち (24.6%)

問 21×年代別

紀北町の将来像を年代別で見ると、すべての年代で「若者の定着するまち」が最も高く、次いで「福祉・医療の充実したまち」が高くなっています。若者の定住促進と合わせ、子どもから高齢者までのライフステージに応じた福祉・医療の充実が求められています。また、20～30代では「環境を大切にしたまち」が比較的高く、地球環境問題への取り組みについての関心の高さがうかがえます。

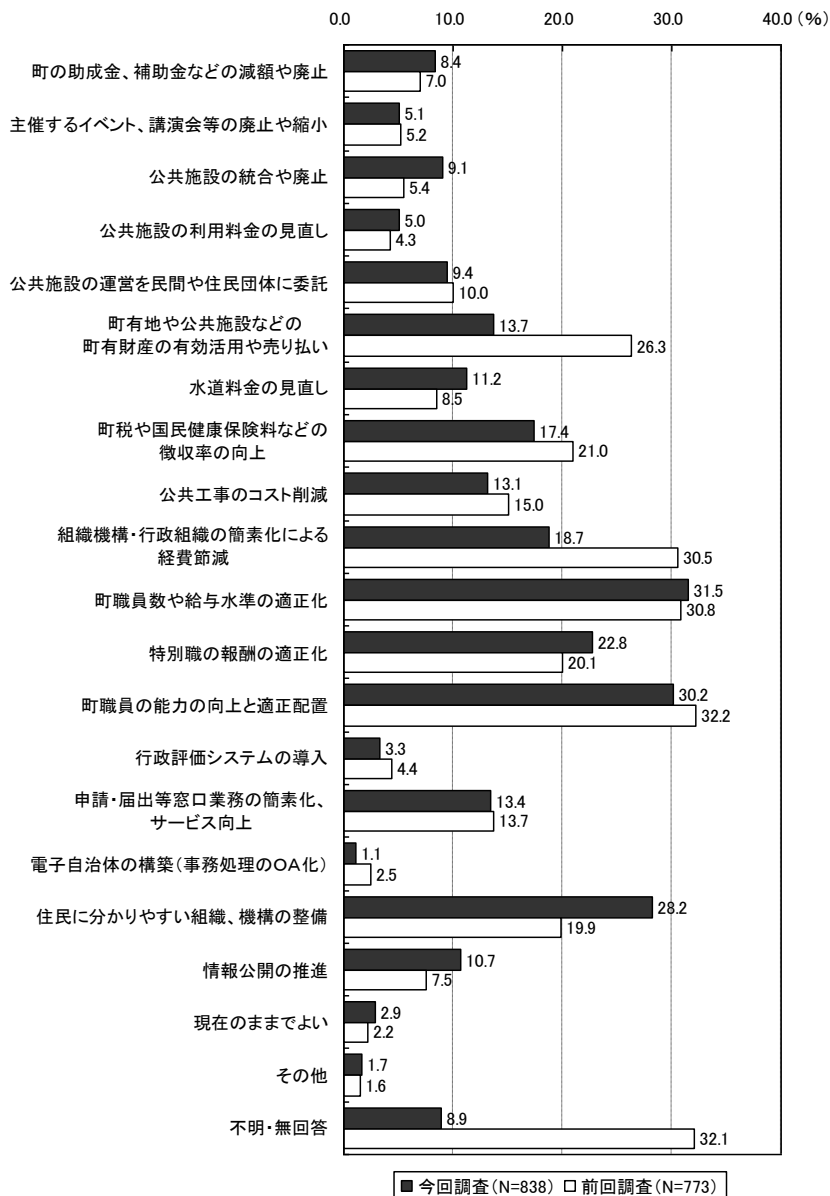


	1位	2位	3位
全体	若者の定着するまち (58.6%)	福祉・医療の充実したまち (47.7%)	高齢者が生き生きと暮らすまち (41.1%)
20代～30代	若者の定着するまち (52.9%)	福祉・医療の充実したまち (48.7%)	環境を大切にしたまち (42.0%)
40代～50代	若者の定着するまち (58.4%)	福祉・医療の充実したまち (50.9%)	高齢者が生き生きと暮らすまち (38.9%)
60代以上	若者の定着するまち (59.9%)	福祉・医療の充実したまち (46.3%)	高齢者が生き生きと暮らすまち (45.9%)

7. 行政サービスについて

問 22. あなたは、今後の行政及び財政運営で改善すべき重点項目は何だと思いますか。 (複数回答)

行政及び財政運営で改善すべきことは、「町職員数や給与水準の適正化」が 31.5%と最も高く、次いで「町職員の能力の向上と適正配置」が 30.2%、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」が 28.2%となっており、町職員や組織の適正なあり方が求められている傾向がうかがえます。前回調査と比較すると、今回調査では「町職員数や給与水準の適正化」が 1 位、「町職員の能力の向上と適正配置」が 2 位と前回調査と逆転しています。また、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」の割合が前回調査よりも高くなっています。



	1 位	2 位	3 位
今回調査	町職員数や給与水準の適正化 (31.5%)	町職員の能力の向上と適正配置 (30.2%)	住民に分かりやすい組織、機構の整備 (28.2%)
前回調査	町職員の能力の向上と適正配置 (32.2%)	町職員数や給与水準の適正化 (30.8%)	組織機構・行政組織の簡素化による経費節減 (30.5%)

III. 結果の考察

1. 全体考察

【1】回答者について

回答者については、高齢化を反映した結果となっており、この傾向が全体の回答結果にも影響しているものと思われます。また、家族構成のうち「1人世帯」が増えており、特に高齢者の「1人世帯」の割合が高いことは、今後のまちづくりの課題の1つであると言えます。

【2】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「自然環境」や「上水道」、「ごみ収集・処理」への評価が高いものの、「交通機関」、「労働環境」、「保健医療」などの満足度は低くなっています。重要度では「消防・防災」「保健医療」「自然環境」が上位となっており、生活の安心・安全や紀北町の魅力の1つである「自然環境」が重要であるとの認識がうかがえます。前回調査との比較では「消防・防災」「コミュニティ施設」などの満足度が向上したものの、「買物利便性」や「生涯学習、芸術・文化」などでは、低下しています。重要度でも「買物利便性」「コミュニティ施設」で向上しており、これらの取り組みは、引き続き力を入れていく必要があります。

【3】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「農林業のまち」などと合わせ、「人情味や連帯感のあるまち」が上位の項目となっており、都市部では少ない傾向であると言えます。しかし、40～50代で『人情味や連帯感』の割合が他の年代と比べて低くなっており、これからの紀北町の地域のあり方を検討していく必要があります。

6割弱が紀北町は『住みやすい』としていますが、『住み続けたくない』人では、『住みにくい』が大半を占めています。住みやすさとしては、自然環境や住みなれた土地、近所づきあいという要素が強く、住みにくさは買い物や職場、医療、交通等の理由となっています。

全体を通じて、雇用・就労へのニーズが高く、現在の社会経済状況を反映した結果となっています。地域資源を活かしながら新たな産業のあり方を検討していく必要があります。

今後の定住意向については、6割以上が『住み続けたい』と回答していますが、この結果は、今後移動する可能性が少ない高齢者が多いということも考慮する必要があります。一方で、「わからない」が2割以上と多くなっており、特に40～50代での割合が高いことから、子どもの進学や、老後の不安等が影響していることがうかがえます。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致や若者定住対策などと合わせ、医療や福祉などの割合も高くなっています。

【4】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、農林業、水産業などの単体ではなく、連携した産業や観光・集客交流産業の充実を図るべきという意見が多くなっており、観光面では、体験型観光に力を入れるべきであるという結果となっています。

保健・医療分野については、「救急医療体制の整備・充実」が求められており、近隣市との連携強化や、交通面の改善等により、対応していくことが必要です。高齢者福祉については、移動手段の確保や入所施設のニーズが高くなっています。これらは特に高齢層で割合が高くなっており、今後のさらなる高齢化に向けた準備が必要です。

環境分野については、「町民・事業者・町の自主的な取り組み」が最も高くなっており、それぞれの立場からできる環境保全の取り組みを促進していく必要があります。

少子化対策については、若者の就労や仕事と家庭の両立など、経済的な安定や共働きの支援が求められています。

消防・防災体制については、災害時要援護者への支援が群を抜いて高くなっており、ソフト面の取り組みへのニーズが高くなっています。

子どもの健全育成については、学力の向上よりも、心の教育や生徒指導、安全性などのニーズが高くなっており、特に若い世代ではこうした傾向が顕著となっています。

生涯学習については、講座の充実や活動場所の確保などが求められており、空き教室の開放や公民館等の利活用について検討する必要があります。

【5】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は、半数に満たず、特に若い世代での参加が少なくなっています。参加していない理由として「時間がない」と合わせ、「参加する仲間がない」「興味がある活動がない」も2割以上となっており、こうした工夫をしていくことで、参加を促進することが可能であると考えられます。充実すべき活動としては、「冠婚葬祭などの生活改善」や「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」などが上位となっていますが、若い世代では「祭り、盆踊り、運動会」などについても高い割合となっています。また、住民参加については、参加しやすい組織や体制づくりが求められています。

【6】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」が最も高く、「福祉・医療の充実したまち」「高齢者が生き生きと暮らすまち」など、保健福祉分野の取り組みと合わせ、定住促進についても検討していく必要があります。

【7】行政サービスについて

行財政運営については、「町職員定数や給与水準の適正化」や「町職員の能力の向上と適正配置」「住民に分かりやすい組織、機構の整備」などが上位の項目となっており、町職員や組織の適正なあり方が求められています。

2. 年代別傾向の考察

アンケート結果の分析において、年代ごとの違いが見られたことから、それぞれの世代の傾向をまとめます。

◇20～30代

【1】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「自然環境」や「上水道」、「ごみ収集・処理」への評価が高いものの、「交通機関」「保健医療」「労働環境」、などの満足度は低くなっています。重要度では「消防・防災」「保健医療」「労働環境」が上位となっており、安心・安全や生活基盤となる労働面が重要であるとの認識がうかがえます。

【2】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」「農林業のまち」などが上位の項目となっており、自然環境や産業のまちとしてのイメージを持っていることがうかがえます。

『住みやすい』と感じている割合は他の年代と比べて低く、『住みにくい』理由として、「道路事情が悪い」「買物がしにくい」などの割合が高いことから、より便利な生活を求める傾向がうかがえます。

今後の定住意向については、半数以上が『住み続けたい』と回答していますが、「わからない」が3割弱と多くなっており、子どもの進学などが影響していることがうかがえます。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致や若者定住対策などと合わせ、他の世代に比べ医療の割合も高くなっています。

【3】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、観光・集客交流産業の充実を図るべきという意見が多くなっており、体験型観光や地域ブランド、観光イベントの充実に力を入れるべきであるという結果となっています。

保健・医療分野については、「救急医療体制の整備・充実」が求められており、近隣市との連携強化や、交通面の改善等により、対応していくことが必要です。高齢者福祉については、移動手段の確保や配食サービスの割合が高く、在宅での生活への支援が求められています。

環境分野については、「河川や池・沼などの水辺の保全」が最も高く、水環境への愛着がうかがえます。

少子化対策については、若者の就労や仕事と家庭の両立、子ども手当など、経済的な安定や共働きの支援が求められています。

消防・防災体制については、災害時要援護者への支援、消防署による消防や救急体制の充実が求められています。

子どもの健全育成については、学力の向上よりも、心の教育や生徒指導、安全性などのニーズが高くなっています。

生涯学習については、活動場所の確保、充実が求められています。

【4】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は、他の年代に比べて低く、参加していない理由として「時間がない」が群を抜いて高くなっています。充実すべき活動としては、「祭り、盆踊り、運動会など」や「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」などが上位となっています。また、住民参加については、参加しやすい組織や体制づくりとあわせ、広報活動の充実・強化が求められています。

【5】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」、「福祉・医療の充実したまち」と合わせ、「環境を大切にしたまち」などが求められています。

【6】行政サービスについて

行財政運営については、「住民に分かりやすい組織、機構の整備」「町職員の能力の向上と適正配置」「町職員定数や給与水準の適正化」などが上位の項目となっており、行政組織の分かりやすさや町職員や組織の適正なあり方が求められています。

主な傾向

- 自然や環境への興味・関心が高く、こうした部分に紀北町の魅力を感じているものの、生活利便性の面では他の年代よりも不満を感じている。
- 近所づきあいや地域活動への参加など、地域とのつながりが他の年代よりも消極的な傾向がある。
- 少子化対策や定住促進に向けて、就労や教育、子育てに対するニーズが高い。
- イベントや地域ブランドを活用した観光・集客交流産業への期待が大きく、水産業への期待が他の年代よりも大きい。
- 救急医療体制や子どもの健康診断など、出産・子育てに関する医療体制の充実を求めている。
- 高齢者には、自宅でサービスを活用しながら暮らしてもらいたいと考えている。
- 消防・防災体制では、他の年代よりも消防・救急体制を求める割合が高い。
- 子どもの健全育成では、他の年代よりも、学力向上以外の心の教育や通学の安全・利便性を求める割合が高い。
- 生涯学習・スポーツでは、他の年代よりも施設や場所の確保を求める割合が高い。
- 祭りやスポーツ活動、子どもに関連する活動への関心が高い。
- 広報等の充実による情報の入手を求めている。
- 希望する紀北町の将来像は、環境を大切にしながら観光や水産業によるまちづくりが求められている。
- 行政との接点が少ないことが予測されるため、行政組織の分かりやすさを求めている。

◇40～50代

【1】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「自然環境」や「上水道」、「ゴミ収集・処理」への評価が高いものの、「交通機関」「労働環境」「保健医療」などの満足度は低くなっています。重要度では「消防・防災」「保健医療」「労働環境」が上位となっており、安心・安全や生活基盤となる労働面が重要であるとの認識がうかがえます。

【2】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「水産業のまち」「自然が豊かで美しいまち」「農林業のまち」などが上位の項目となっており、自然環境や産業のまちとしてのイメージを持っていることがうかがえます。

『住みやすい』と感じている割合は6割弱となっており、『住みやすい』理由として、「自然が豊かである」「住みなれた土地で愛着がある」などの割合が高くなっています。『住みにくい』理由は、「良い職場がない」「公共施設や医療機関が整っていない」が高くなっています。

今後の定住意向については、「わからない」が、他の年代よりも高く、このまま紀北町に住み続けるかどうか、判断がつかない状況がうかがえます。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致が群を抜いて高くなっています。

【3】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、農林水産業と結びついた産業や観光・集客交流産業の充実を図るべきという意見が多くなっており、体験型観光や地域ブランドに力を入れるべきであるという結果となっています。

保健・医療分野については、「救急医療体制の整備・充実」と合わせ、「生活習慣病の健診、指導」が他の年代と比べて高く、体制面の強化が必要です。高齢者福祉については、介護施設や移動手段と合わせ、生きがいつくりの割合が高く、今後高齢化する年代の意見として、これからのまちづくりに反映する必要があります。

環境分野については、「河川や池・沼などの水辺の保全」が最も高く、水環境への愛着がうかがえます。

少子化対策については、若者の就労が群を抜いて高くなっており、子どもが就労を迎える世代であることが反映していることがうかがえます。

消防・防災体制については、災害時要援護者への支援と合わせ、災害時の情報連絡体制の充実が高くなっており、災害発生に備えた対策が求められています。

子どもの健全育成については、心の教育や生徒指導、安全性などのニーズが高いとともに、学力向上やキャリア教育も求められており、子どもの進学、就職に不安を感じている傾向がうかがえます。

生涯学習については、講座の充実が求められており、多様なニーズへの対応が必要です。

【4】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は低く、20～30代とほぼ同様の傾向となっており、参加していない理由として「時間がない」が群を抜いて高くなっています。充実すべき活動としては、「海や川をきれいにする運動などの環境を良くする活動」や「教養講座・文化講座・趣味の会などの活動」などが上位となっています。また、住民参加については、参加しやすい組織や体制づくりと合わせ、「NPO・ボランティア組織等の充実」が求められています。

【5】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」が最も高く、「福祉・医療の充実したまち」など、保健福祉分野の取り組みと合わせ、定住促進についても検討していく必要があります。

【6】行政サービスについて

行財政運営については、「町職員の能力の向上と適正配置」「町職員定数や給与水準の適正化」などが上位の項目となっており、町職員や組織の適正なあり方が求められています。

主な傾向

- 紀北町を農林水産業のまちとして考えており、まちへの愛着が他の年代よりも薄い。
- 自家用車での移動により、交通への不便は他の年代よりも感じていないものの、職場や公共施設・医療機関等に不満を感じており、定住するかどうか決めかねている。
- 子どもが就職する年代であるため、雇用に関する問題への関心が高い。
- 観光振興のために、地域ブランドの開発などを求めている。
- 生活習慣病予防への関心が他の年代よりも高く健康意識が高いと思われる。
- 高齢者施策では、他の年代より生きがいづくりの充実を求める割合が高い。
- 防災面では、意識よりも組織や仕組みを求める割合が高く、特に情報連絡体制の充実が求められている。
- 教育については、他の年代よりも学力向上を求める割合が高い。
- 生涯学習については、講座や場所の確保を求めている。
- 地域活動への参加割合は、20～30代とほぼ変わらないため、退職まで同じ傾向が予測されるとともに、「参加方法がわからない」割合が他の年代よりも高いことから、老人クラブやPTA等、世代別グループへの参加がないことが影響していると思われる。
- 教育・文化・趣味、環境保全活動などへの関心が高い。
- 希望する紀北町の将来像は、福祉・医療の充実したまちづくりが求められている。
- 職員の待遇や資質など、行政組織への関心が高い。

◇60代以上

【1】満足度・重要度について

満足度・重要度では、「上水道」や「ごみ収集・処理」、「自然環境」への評価が高いものの、「労働環境」「交通機関」「買物利便性」などの満足度は低くなっています。重要度では「消防・防災」「上水道」「ごみ収集・処理」が上位となっており、生活の安心・安全や生活環境面が重要であるとの認識がうかがえます。

【2】これからのまちづくりについて

紀北町のイメージとしては、「自然が豊かで美しいまち」「水産業のまち」と合わせ、「人情味や連帯感のあるまち」が上位の項目となっており、他の年代よりも高くなっています。

6割以上が紀北町は『住みやすい』としており、住みなれた土地であることと合わせ、生活環境面に満足している状況がうかがえます。

今後の定住意向については、7割弱が『住み続けたい』と回答していますが、今後移動する可能性が少ない高齢者ということも考慮する必要があります。

今後力を入れてほしいと思う施策については、企業誘致や若者定住対策などと合わせ、「町営バスの運行」への期待が他の年代と比べて高くなっています。

【3】分野別のまちづくりについて

今後の産業発展については、農林業、水産業などの単体ではなく、連携した産業が求められているものの、観光・集客交流産業については、他の年代と比べ低くなっています。

保健・医療分野については、「救急医療体制の整備・充実」が最も高くなっていますが、他の年代よりも低くなっています。高齢者福祉については、入所施設のニーズが高くなっています。

環境分野については、「町民・事業者・町の自主的な取り組み」が最も高くなっており、それぞれの立場からできる環境保全の取り組みを促進していく必要があります。

少子化対策については、若者の就労や安心して遊べる場が求められています。

消防・防災体制については、災害時要援護者への支援が群を抜いて高くなっており、災害時の不安を反映した結果となっています。

子どもの健全育成については、特に郷土愛を育む教育の割合が高くなっています。

生涯学習については、講座の充実や活動場所の確保などが求められており、空き教室の開放や公民館等の利活用について検討する必要があります。

【4】住民参加について

現在、地域活動やボランティアに参加している割合は、4割以上となっていますが、参加していない理由として「時間がない」と合わせ、「参加する仲間がいない」も2割以上となっています。充実すべき活動としては、「冠婚葬祭などの生活改善」が高くなっており、地域の慣習等の改善が求められています。

【5】将来像について

紀北町の将来像について、「若者が定着するまち」が最も高く、「福祉・医療の充実したまち」「高齢者が生き生きと暮らすまち」など、保健福祉分野の取り組みと合わせ、定住促進についても検討していく必要があります。

【6】行政サービスについて

行財政運営については、「町職員定数や給与水準の適正化」や「町職員の能力の向上と適正配置」「住民に分かりやすい組織、機構の整備」などが上位の項目となっており、町職員や組織の適正なあり方が求められています。

主な傾向

- 他の年代よりも、まちに人情味や連帯感を感じ、誇りに思っており、住みやすいと感じている。
- 生活環境や近所づきあいのよさを感じているが、買い物の不便や災害への不安を感じている。
- 医療・保健・福祉について、他の年代よりも良い評価をしている。
- 定住意向は高いものの、就職等での移動の可能性がないこと、持ち家や家業があることから定住が大半であると思われる。
- 買い物支援やバスの運行などへのニーズが高く、移動支援を求める割合が高い。
- 農林水産業を基幹とした産業振興を求める割合が高く、観光では体験型観光の充実を求めている。
- 他の年代よりも健康相談や健康教育など、保健分野へのニーズが高い。
- 住宅改修や介護保険施設を求める割合が高く、高齢期の住まいの場の確保への関心が高い。
- 環境については、生活排水集合処理施設の整備などの生活環境面のハード整備と、町民・事業者・町の自主的な取り組みの両面を求める割合が高い。
- 子どもの健全育成では、学びや遊びの場の確保や安心・安全の確保などが他の年代よりも割合が高い。
- 災害時要援護者の支援へのニーズが高い。
- 教育には、郷土愛や心身の健康を求める割合が高い。
- 公民館などの集会場所や学校施設の開放などによる場の確保を求める割合が高い。
- 地域活動への参加割合は他の年代よりも高い。
- 地域活動では、冠婚葬祭などの生活改善を求める割合が高い。
- 希望する紀北町の将来像は、高齢者が生き生きと暮らすまちづくりが求められている。